

本日はご参加ありがとうございます。セミナー開始まで少々お待ちください。

BIM図面審査 ArchSync説明会

令和8年4月2日（木）
14:00～15:30

タイムテーブル

14：00～ ：国土交通省ご挨拶

14：10～ ：BIM図面審査制度・CDEのご説明

【ご質問について】

主な質疑と回答については、追って後日ICBAサイトにて公開する予定です。

ご質問があれば、以下の手段にてお願いします。

- 1.説明会中におけるZoomのQ&Aから
- 2.説明会終了後のアンケートから：ご質問をお受けする項目を準備しております。

※なお、説明会時間内におけるリアルタイムな回答はいたしかねます。あらかじめご了承ください。

BIM図面審査 ArchSync説明会

2026/4/2

一般財団法人建築行政情報センター

14:00～14:10 : 国土交通省ご挨拶

14:10～15:30 : BIM図面審査制度・CDEのご説明

【ご質問について】

主な質疑と回答については、後日ICBAサイトにて公開する予定です。ご質問があれば、以下の手段にてお願いします。

- 説明会中におけるZoomのQ&Aから
- 説明会終了後のアンケートから：ご質問をお受けする項目を準備しております。

※なお、説明会時間内におけるリアルタイムな回答はいたしかねます。あらかじめご了承ください。

本年4月1日、BIM図面審査制度がいよいよスタートしました。

本日は、制度開始にあたり各方面で進められてきた準備を振り返りながら、皆様のご対応に抜け漏れがないか、改めてご確認いただく機会としたいと考えています。

また、BIM図面審査の実務を見据えて準備を進めてきた ArchSync について、本日は新たに、企画・設計・施工・維持管理といった建築ライフサイクル全体での活用イメージについてご紹介いたします。

本日のアジェンダ

1. BIM図面審査に関するご説明

1. 振り返り | BIM活用の将来像とBIM図面審査の位置づけ、制度・CDE概要
2. 制度開始に向けて行われた各方面の準備
3. 制度対応を始めるまでの進め方

2. 新たな提供体系（プロジェクトCDE）に関するご説明

1. プロジェクトCDEの位置づけ・料金
2. サービス利用に向けた進め方

3. ICBAが提供するサービス（ArchSync）について

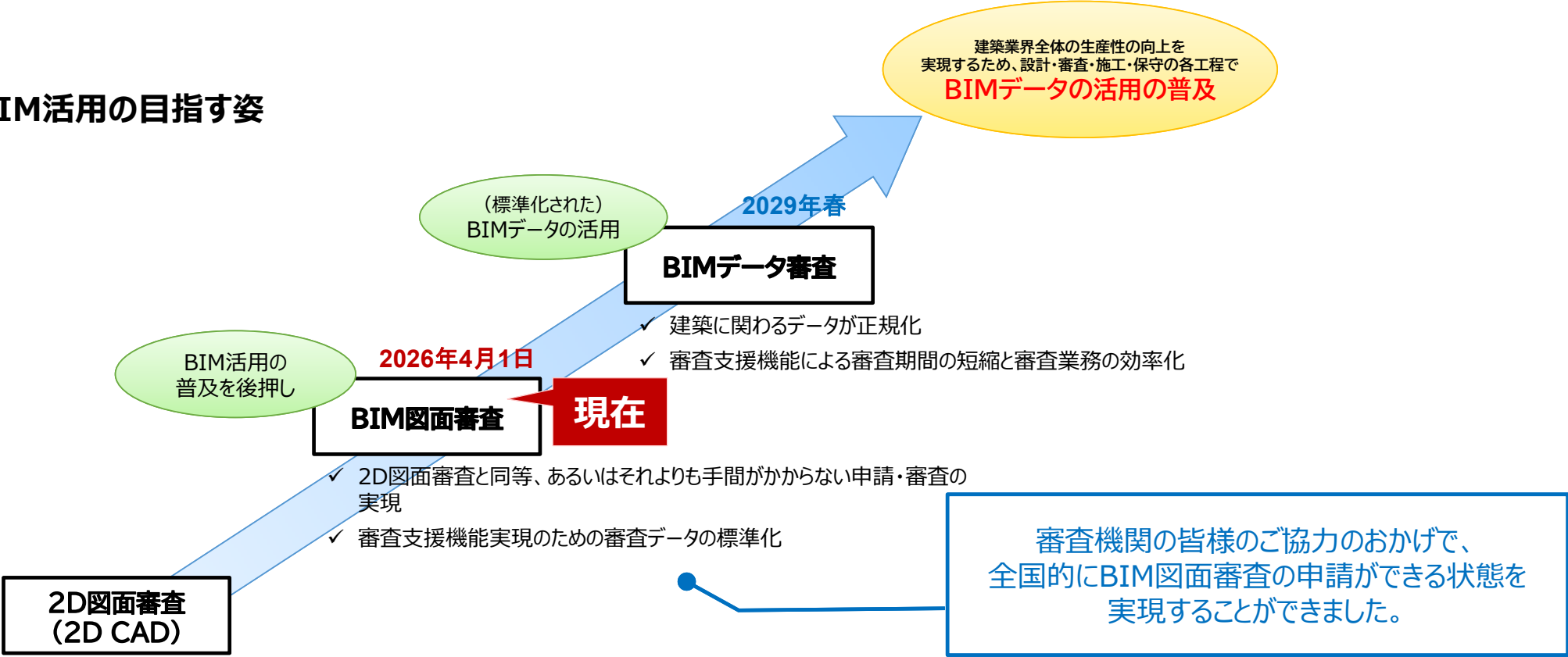
振り返り |

BIM活用の将来像とBIM図面審査の位置づけ、制度・CDE概要

建築行政におけるBIMデータ活用までのステップ

- 建築業界全体におけるデータ活用の推進に向けて、以下の3つの主要なステップを実行する。
- 第1段階では、整合性の高い申請書類を作成し、それにより審査プロセスの一部を簡略化することを目指す。
- 第2段階では、BIMデータを活用した新たな審査制度を設計し、建築確認申請の審査期間の短縮など、利用者にとっての利便性向上を図る。
- 第3段階として、収集したBIMデータを基盤に、建築業界全体の効率化および高度化を実現する。

BIM活用の目指す姿



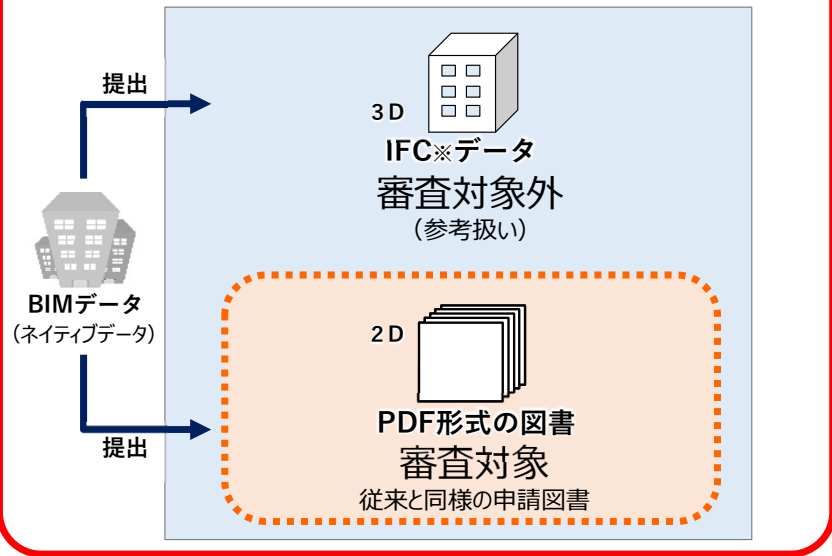
BIM図面審査・BIMデータ審査について

- BIM図面審査は、BIMデータより出力された図面を審査の対象にすることで、図面間の整合チェックを不要とする制度です。審査は図面の他に同じBIMデータから出力されたIFCデータも参照され、構造の把握に役立てられます。
- また、2029年春より始まるBIMデータ審査では、IFCデータ自体が審査対象となり、さらなる審査の効率化が図られる見込みです。

BIM図面審査

BIMデータから出力されたIFCデータとPDF形式の図書の提出により、図面間の整合チェックが不要となり、審査期間の短縮に寄与

2026年4月1日 開始 ▶ 2027年度～ 順次拡大

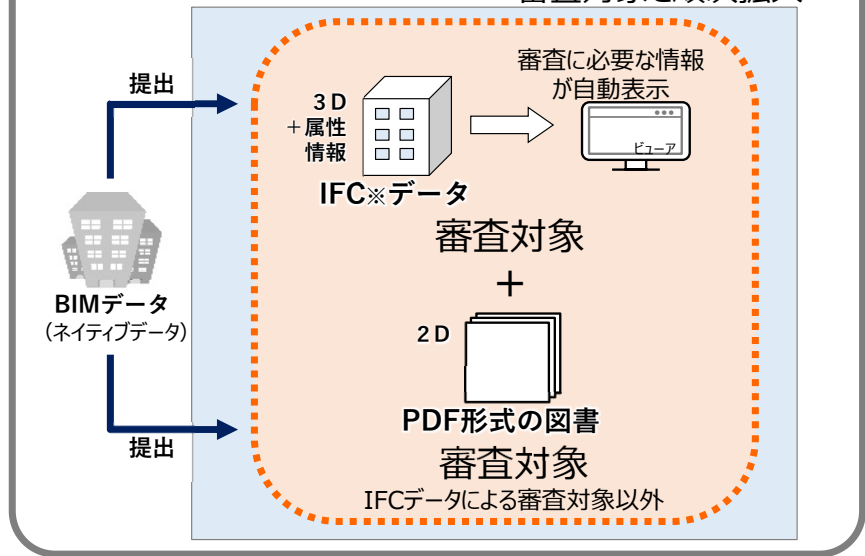


※ IFC : BIMの共通ファイルフォーマット

BIMデータ審査

IFCデータを審査に活用し、審査に必要な情報が自動表示されることにより、更なる審査の効率化（審査期間の更なる短縮）に寄与

2029年春 開始 ▶ 将来像 IFCデータを活用した審査対象を順次拡大



■ : CDE上での提出範囲 ■ (点線) : 審査対象範囲

質問は随時チャットにて受付中

BIM図面審査とは

BIM図面審査の定義

- BIM図面審査とは、**BIMデータから書き出された図書**を活用した建築確認における申請及び審査の方法をいう。
- **入出力基準に従い作成されたBIMデータから書き出された図書**を活用することにより、**図書の整合性確認を一部省略**するほか、**審査の参考としてIFCデータを活用**することにより、**建築確認のための申請・審査を効率的に行う**ことができる。

BIM図面審査の特徴

作成ルール

特徴①

入出力基準に則り
図書を作成する



BIMデータから出力された図書の「形状」、「属性」又は「計算」に関して、図書の記載事項の整合性が確保されるための入出力の基準

提出物

特徴②

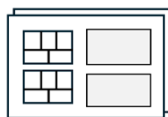
PDF形式の図書に加え、
IFCデータ(と誓約書)を提出する



入出力基準に従って
BIMデータを作成



入出力基準に従って作成されたBIMデータから
書き出したPDF形式の図書とIFCデータ



一部はCAD等で作成
したPDF形式の図書

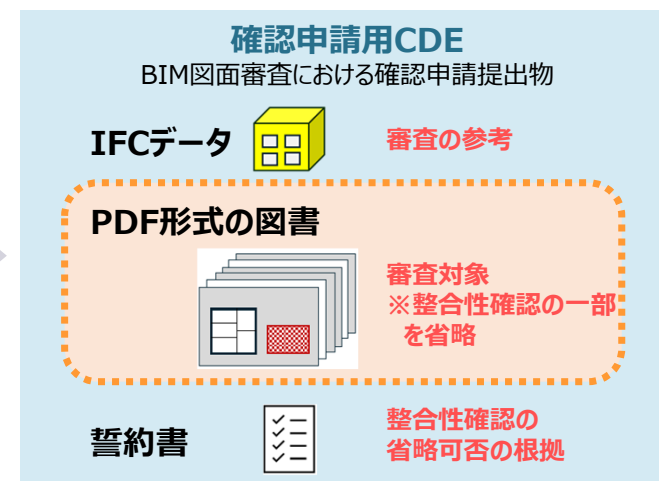


入出力基準に従いBIM
データ作成した旨の誓約書

審査方法

特徴③

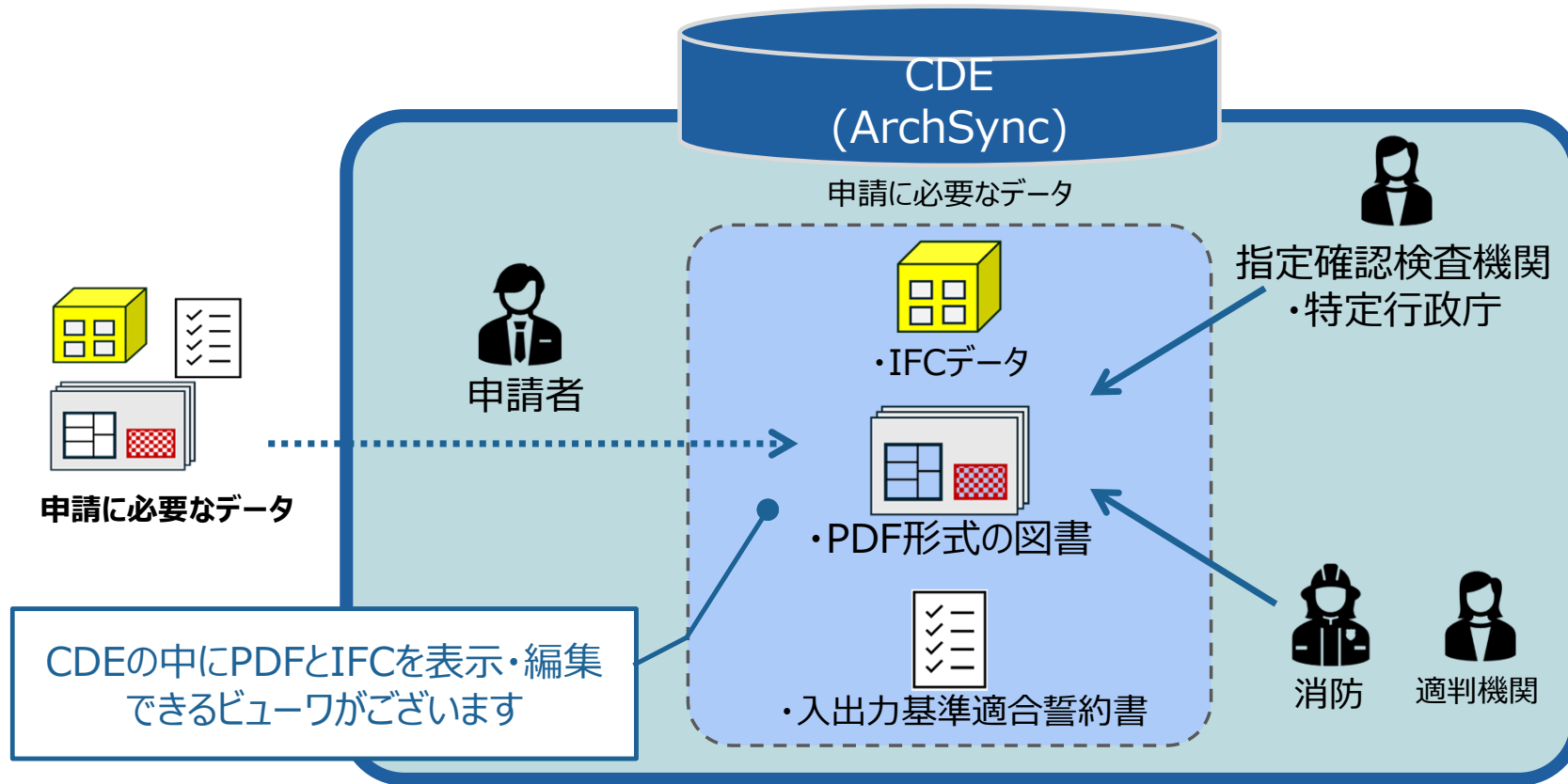
- ・確認申請用CDE上で審査する
- ・整合性確認を省略可能



質問は随時チャットにて受付中

CDE (Common Data Environment) とは

- 確認申請用CDEとは、**関係者全員が同一のデータを参照して建築確認を行うための共通データ環境**です。
- 図面やIFCデータの閲覧、補正指示等のやり取りなどの**審査業務はすべてCDE上で行います**。



BIM図面審査はCDE上で行う
関係者全員が一つのデータを閲覧する

質問は随時チャットにて受付中

従来審査とBIM図面審査の違い

- BIM図面審査は従来審査に比べ、設計ツールの制限や提出物の数は増えますが、それにより**審査の効率化・迅速化が可能となるメリットの大きい制度**です。

| | 従来審査 | BIM図面審査 |
|---------------|---|--|
| 設計ツール | <ul style="list-style-type: none"> 手書き 2DCAD BIM | <ul style="list-style-type: none"> BIM |
| 事前準備 (提出物) | <ol style="list-style-type: none"> 申請書 申請図書 | <ol style="list-style-type: none"> 申請書 申請図書 入出力基準に従い BIMデータを作成した旨の誓約書 IFCデータ |
| 審査環境 | <ul style="list-style-type: none"> 審査機関ごとのローカル環境 | <ul style="list-style-type: none"> 申請者・審査機関共通のオンライン環境 (ArchSync上) |
| 審査項目 | <ul style="list-style-type: none"> 整合確認 法適合確認 | <ul style="list-style-type: none"> 整合確認 (一部を省略) 法適合確認 |

BIMのメリット

▶ **整合性の高い図書を効率的に作成**

制度のメリット①

▶ **建物形状の伝達・把握がスムーズ**

制度のメリット②

▶ **いつでも・どこからでも申請・審査**

制度のメリット③

▶ **審査を一部省略**

質問は随時チャットにて受付中

ArchSyncの特徴と活用のメリット

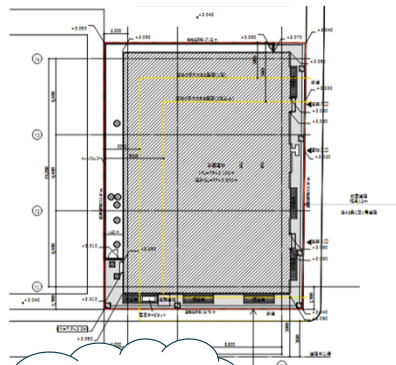
- ArchSyncには、3Dビューワによるモデルの閲覧や、ファイル共有・コミュニケーションの容易さといった特徴があります。
- これにより、形状や意図の伝達が円滑になり、手間やコストの削減、手戻りの抑制といった効果が期待できます。

| # | ArchSyncの特徴 | 活用によるメリット |
|---|---|--------------------------------------|
| 1 | 図面の他に、IFCデータ(3Dモデル)を閲覧できる | ➤ IFCデータにより消防機関-審査機関間で、形状の伝達がスムーズになる |
| 2 | 審査が完全に電子で行われる | ➤ 手間・コストの削減や働き方改革に貢献する |
| 3 | ArchSync上でPDFを表示し、マークアップでの指摘や差分チェックによる変更点把握ができる | ➤ 修正箇所を簡単に把握でき、指摘内容を簡単に共有できる |
| 4 | 全員が共通環境でファイルを共有し、その場でコミュニケーションをとることもできる | ➤ 指摘に齟齬が生まれにくく、また情報管理も簡単に行える |

【特徴1】図面の他に、IFCデータ(3Dモデル)を閲覧でき、建物形状の伝達がスムーズになる

従来審査 (2D図面のみ)

BIM図面審査(3DのIFCデータを参照)



どんな形
何だろう？



消防

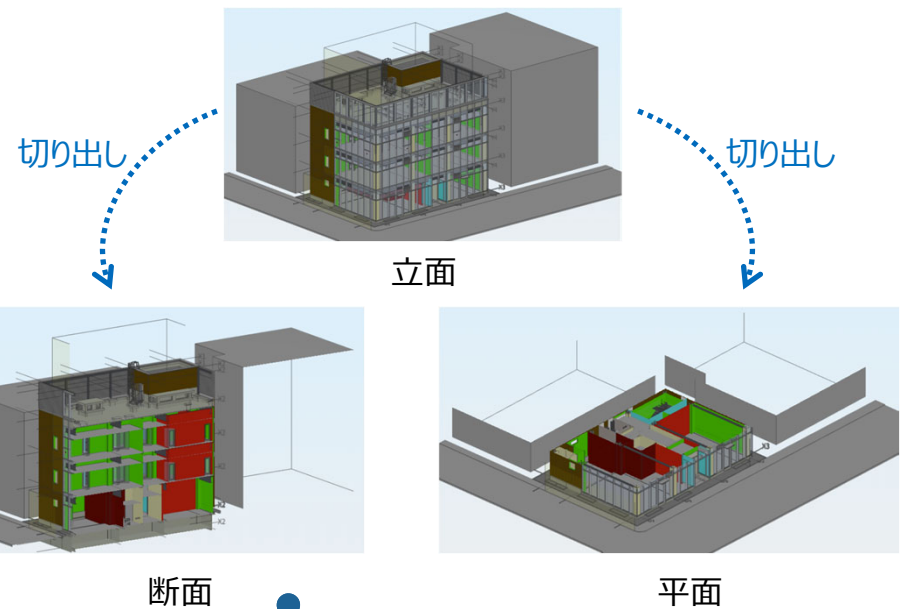
形状に関する質問



審査機関

課題 図面を読み込みに
時間を要する

課題 質問に対応する
必要がある



3Dモデルで断面・平面を自由な角度で
切り出して確認し、形状を理解

IFCデータにより申請者-審査機関間で、形状の伝達がスムーズになる

【特徴2】審査が完全に電子で行われる

手間やコストの削減



印刷・正本・郵送



保管場所の確保

全て不要

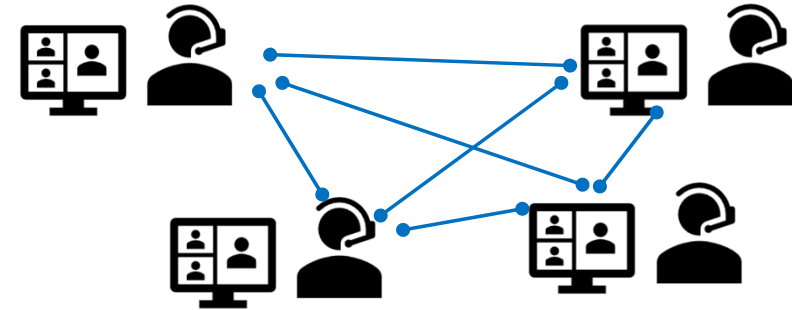
【送付】

- ✓ 印刷・製本・郵送の手間とコストの削減
- ✓ 郵便局等への持ち出しの際の紛失リスクの削減

【保管】

- ✓ 副本化や保管場所確保の手間・コストの削減

多様な働き方の促進

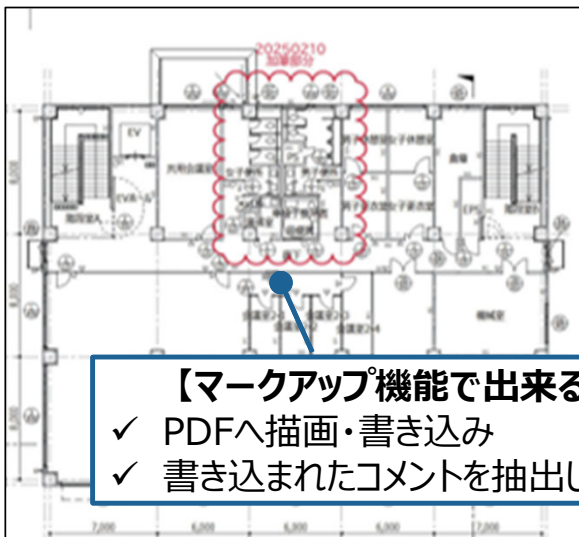


リモートで審査業務

- ✓ いつでも・どこからでも申請・審査が可能
(フレックスタイム制やテレワーク制度の普及促進)

電子審査ならではの効率化や利便性が得られる

マークアップ機能



【マークアップ機能で出来ること】

- ✓ PDFへ描画・書き込み
- ✓ 書き込まれたコメントを抽出しリスト化

申請者

- 指摘の箇所が一目でわかる

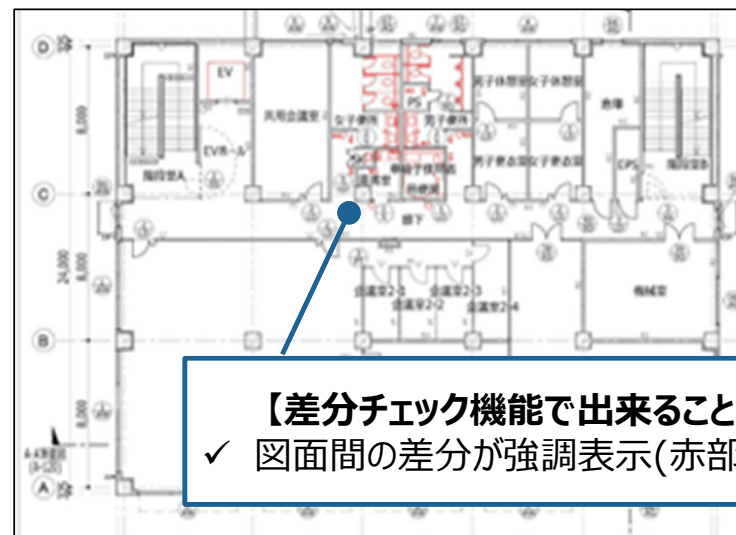
審査機関・消防

- 指摘事項一覧の作成が不要

共通

- 同一環境のため、文字化け等が起こらない
- PDFの編集ソフトを用意する必要がない

差分チェック機能



【差分チェック機能で出来ること】

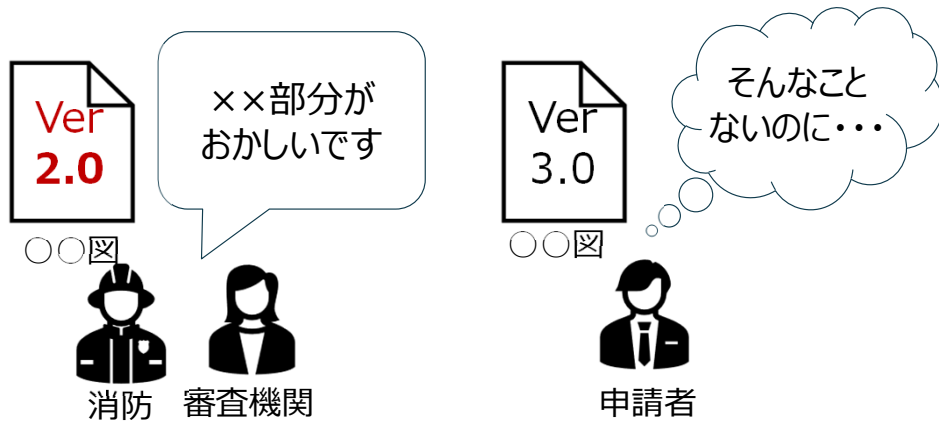
- ✓ 図面間の差分が強調表示(赤部分)

審査機関・消防

- 補正内容の理解が容易
- 指摘外修正を見落とさない

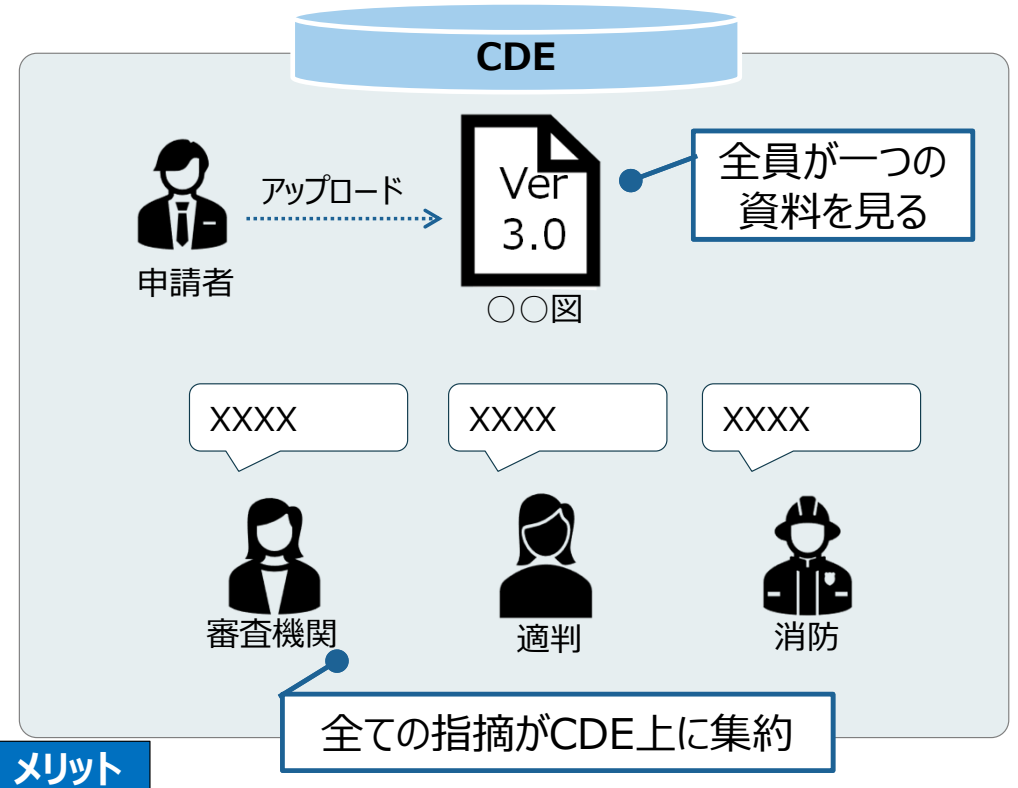
【特徴4】全員が共通環境でファイルを共有し、その場でコミュニケーションをとることもできる

従来審査(各自のローカル環境で審査・やり取り)



✓ 古いバージョンの資料への指摘が発生することがある

BIM図面審査(確認申請用CDE上で審査・やり取り)



メリット

✓ 違う資料を見ることによる誤った指摘が発生しない

再掲 | ArchSyncの特徴と活用のメリットのまとめ

| # | ArchSyncの特徴 | 活用によるメリット |
|---|---|--------------------------------------|
| 1 | 図面の他に、IFCデータ(3Dモデル)を閲覧できる | ➤ IFCデータにより消防機関-審査機関間で、形状の伝達がスムーズになる |
| 2 | 審査のすべてが完全に電子で行われる | ➤ 手間・コストの削減や働き方改革に貢献する |
| 3 | ArchSync上でPDFを表示し、マークアップでの指摘や差分チェックによる変更点把握ができる | ➤ 修正箇所を簡単に把握でき、指摘内容を簡単に共有できる |
| 4 | 全員が共通環境でファイルを共有し、その場でコミュニケーションをとることもできる | ➤ 指摘に齟齬が生まれにくく、また情報管理も簡単に行える |

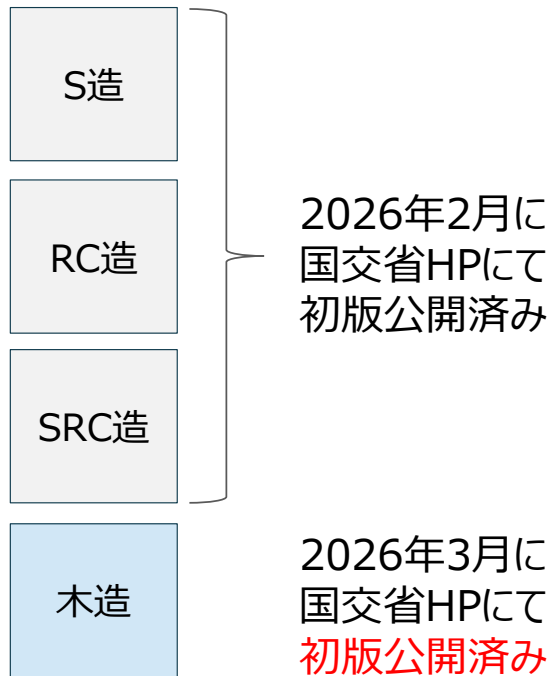
CDEにより申請・審査におけるデータ共有や手続きの効率化が進み、皆様の業務負担軽減と利便性向上が期待されます。制度およびCDEの積極的なご利用をお願いいたします。

BIM図面審査に関する補足：審査の対象について

BIM図面審査制度は**木造や3DCADも含んだ様々な種類の物件・設計ソフトで広く活用可能**な制度で、**入出力基準に一部適合しているだけでもメリットを享受**することができます。

物件の属性

全ての物件が制度の対象



入出力基準への適合状況

一部でも基準を満たしていれば
申請可能

誓約書イメージ

| | | | | | |
|-------|------|----------|-----|----------|--|
| | | 〇〇☒ | 〇〇☒ | 〇〇☒ | |
| 入出力基準 | 意匠-1 | ○ | ○ | ○ | |
| | 意匠-2 | 非適合部分がある | | ○ | |
| | 構造-1 | 非適合部分がある | | ○ | |
| | 構造-2 | ○ | ○ | ○ | |
| | 設備-1 | ○ | ○ | 非適合部分がある | |
| | 設備-2 | 非適合部分がある | | 非適合部分がある | |

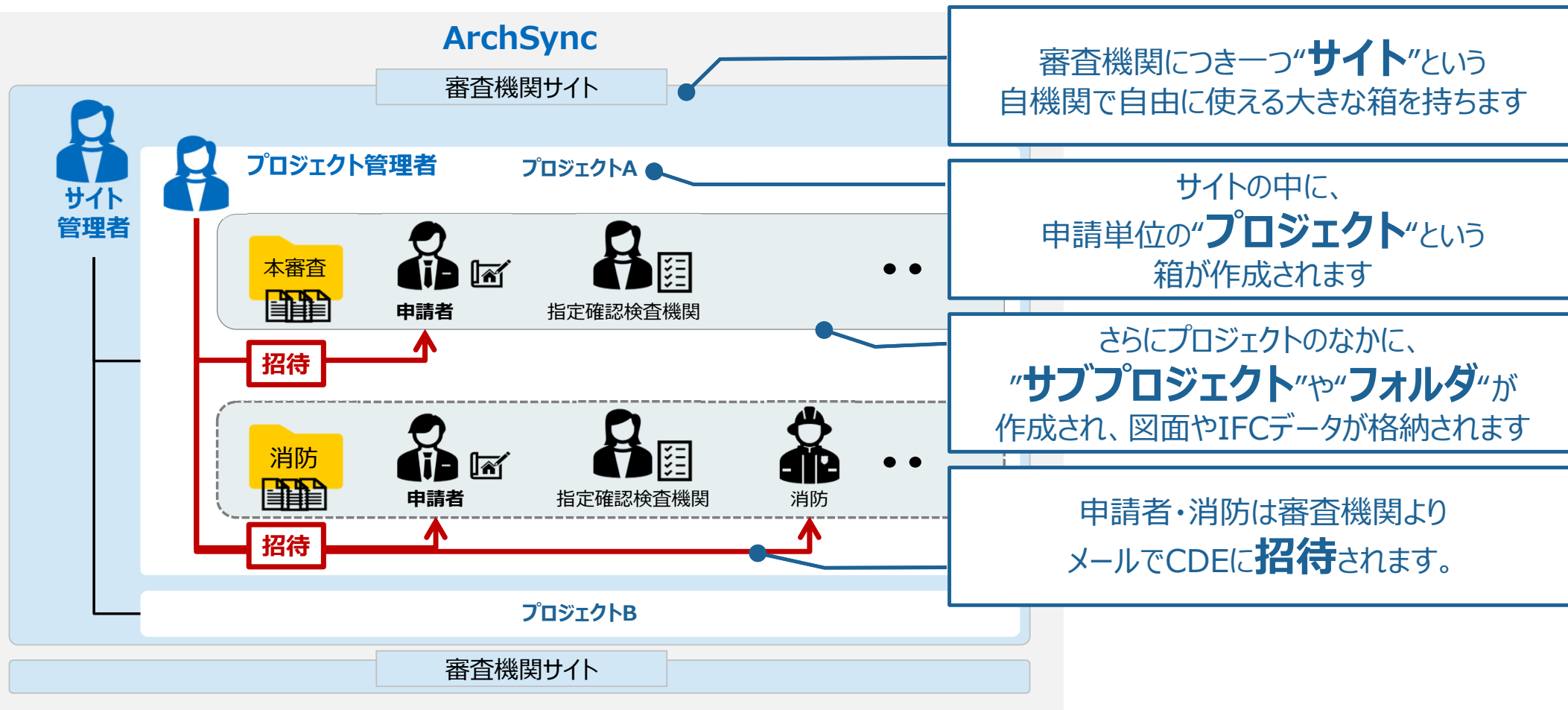
非適合部分がある

質問は随時チャットにて受付中

BIM図面審査フロー(ICBA標準想定)のご説明

ArchSync 建築確認業務・システムの全体像

- ArchSyncでは、審査機関がサイトという審査環境を持ち、フォルダごとに関連メンバーを招待して審査を実施します。
- 消防機関様は、審査機関がプロジェクト内に作成した消防同意用のフォルダに招待され、審査を行います。



BIM図面審査フロー(ICBA標準想定)のご説明 (前提)

本日はご説明するフローの前提

同一機関の別部門を想定

確認機関

省エネ適判機関

構造適判機関

消防

申請受付方法

ICBA電子申請受付システム

CDE導入状況

ArchSyncのサイトを**契約**し、
両部門でサイトを共用

A機関サイト

ArchSync

確認部門用
プロジェクト

省エネ適判部門用
プロジェクト

独自にArchSyncの
サイトを**契約**

B機関サイト ArchSync

構造適判部門用
プロジェクト

サイト契約無し
※招待を受けての
ArchSync利用に対応

全ての機関がICBA受付システムとArchSyncを利用する状態を当財団の標準想定としており、
本日はその場合のフローをご説明します

※尚、受付システム有無・種類はフローに大きく影響をしませんので、自機関の受付方法に置き換えてご理解ください

質問は随時チャットにて受付中

- 申請者は**申請を各審査機関所定の申請受付方法に従って**行う。
- サイトを保有する審査者は、サイト上に**案件のプロジェクトを用意し、必要な関与者の招待**を行う。

0. IFCデータ表示確認（任意）

IFCデータがCDEで正しく表示されるかを確認する

1. 申請

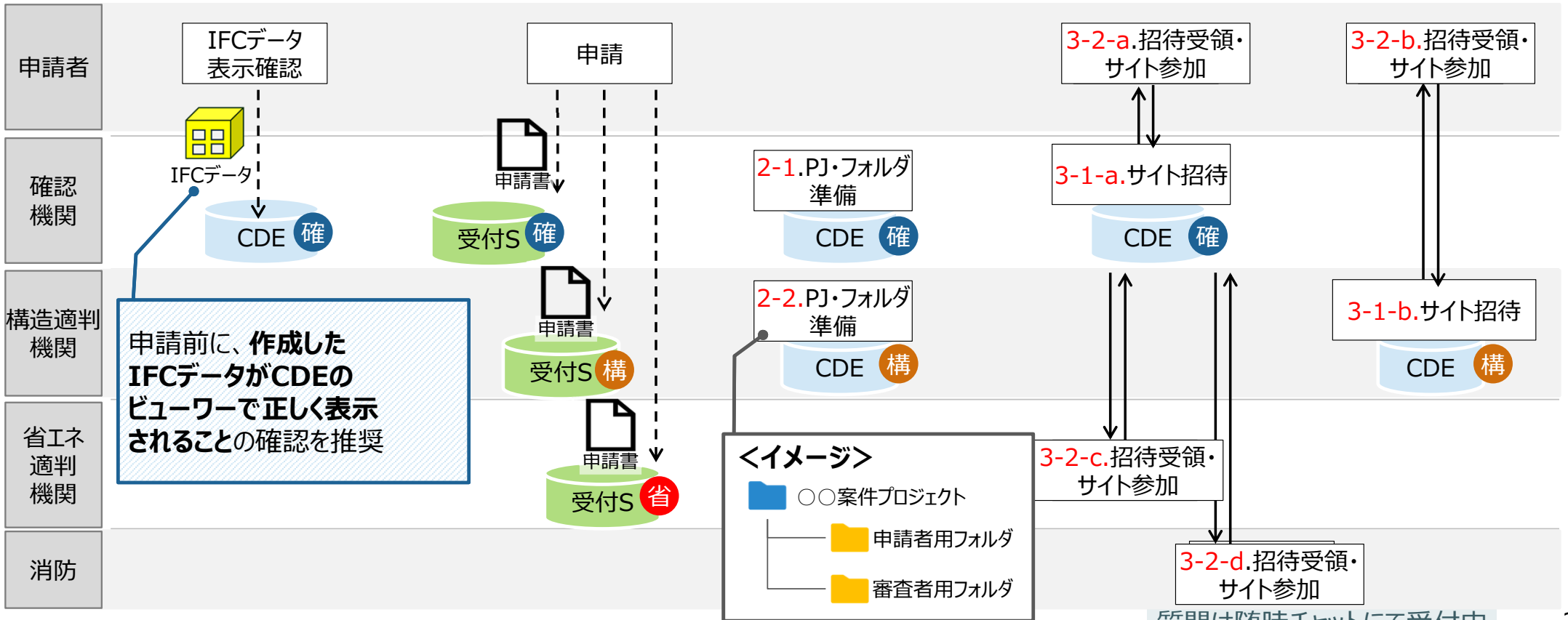
申請者は、各機関へ受付システムを通じて申請する

2. 審査準備（プロジェクト準備）

サイトオーナーは案件用のプロジェクトやフォルダを準備する

3. 審査準備（メンバー招待）

確認機関は申請者・省エネ適判・消防を、構造適判機関は申請者をサイトに招待する



質問は随時チャットにて受付中

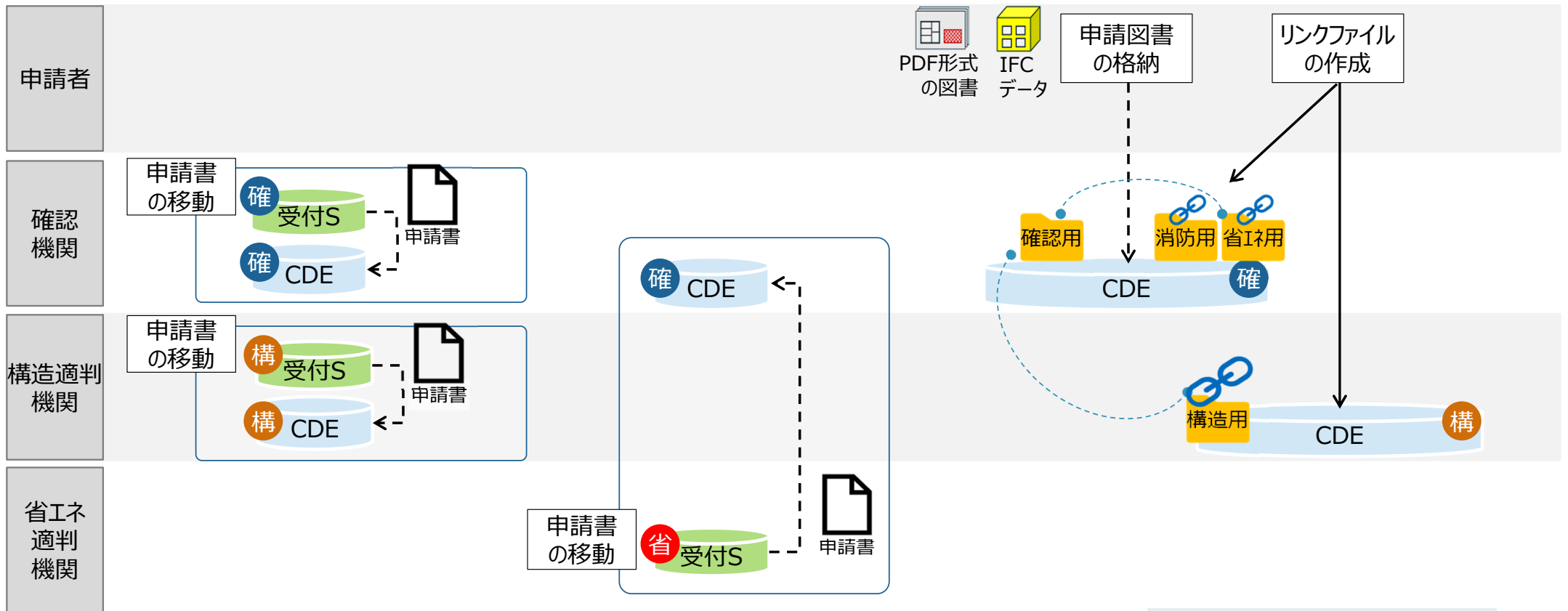
- 各機関(or部門) は**受付システム等で受領した申請書をCDEに移動（格納）**します。
- 申請者は、**確認検査機関のサイトに元ファイルを格納し、適判機関サイトへサイト間リンクファイル**を作成する。

審査準備（申請書のCDEへの移送）

各機関は、受付システム等で受領した申請書をCDE上に移動する

審査準備（申請図書の格納）

申請者は、確認機関のサイトへ申請図書を格納し、リンクファイルを作成する



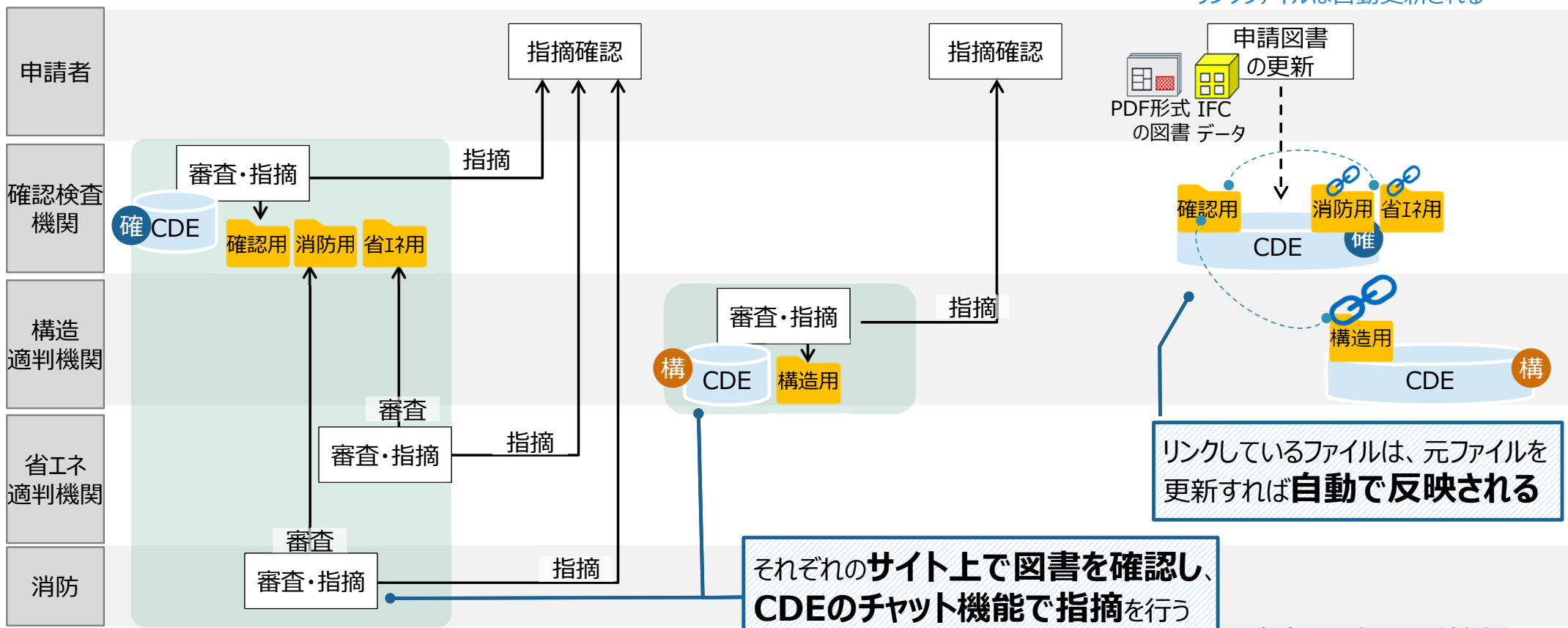
- 各審査者は、**CDE上で審査や申請者とのコミュニケーション**を行う。
- 申請者は、指摘を基に修正した更新版の図書を、**元データが格納された確認機関サイトにて更新する。**

仮受け・審査 (審査・指摘)

各審査者はCDE上で図面を確認し、CDEのチャット機能などで申請者へ指摘を行う

仮受け・審査 (指摘の反映)

申請者は、確認機関サイトの元ファイルを更新する
→リンクファイルは自動更新される



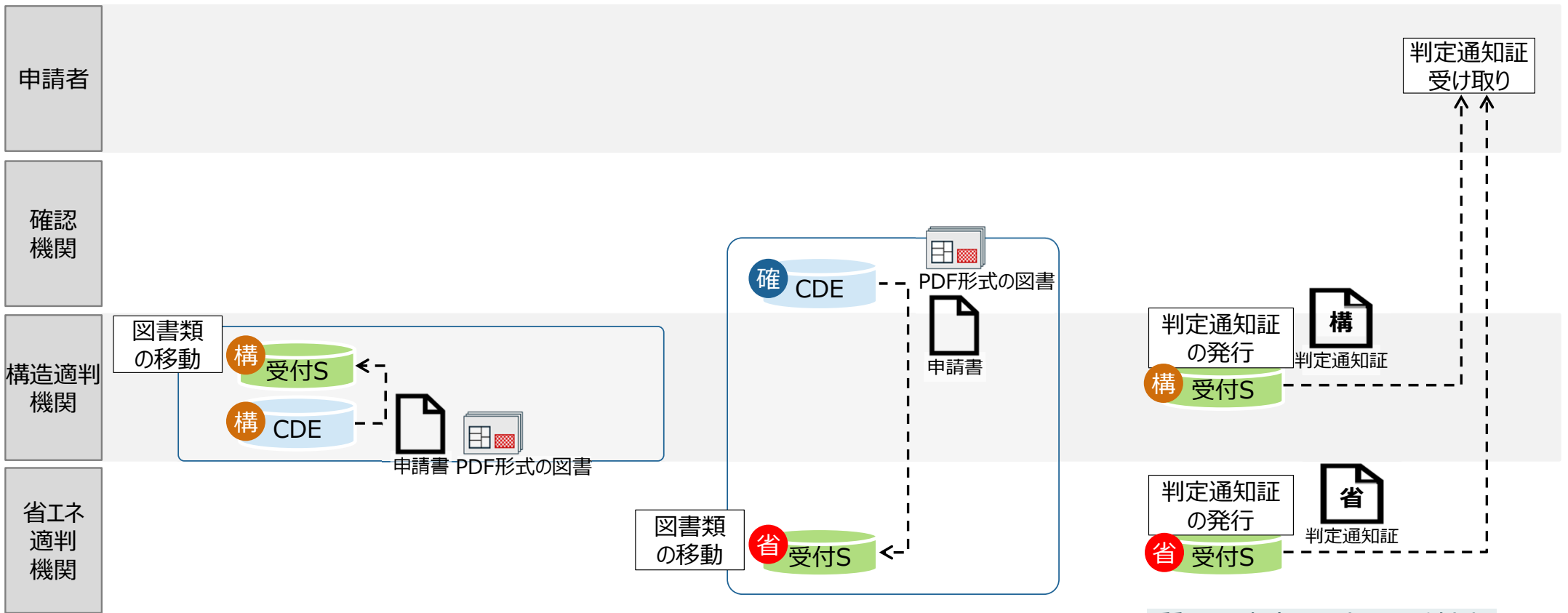
■ CDEには帳票の発行機能はないため、**受付システムにて判定証などの作成・送付**を行う。

判定通知証・確認済み証発行(適判・判定図面の受付システムへの移送)

各機関は受付システムへ、CDE上で確認した申請書と図書を戻す

判定通知証・確認済み証発行(判定通知証の送付)

判定証を受付システムなどから申請者へ送付する



質問は随時チャットにて受付中

ICBA推奨BIM図面審査フロー（受付Sへの書類等の戻し）

確 確認機関の
CDEサイト/受付S

省 省エネ適判機関の
受付S

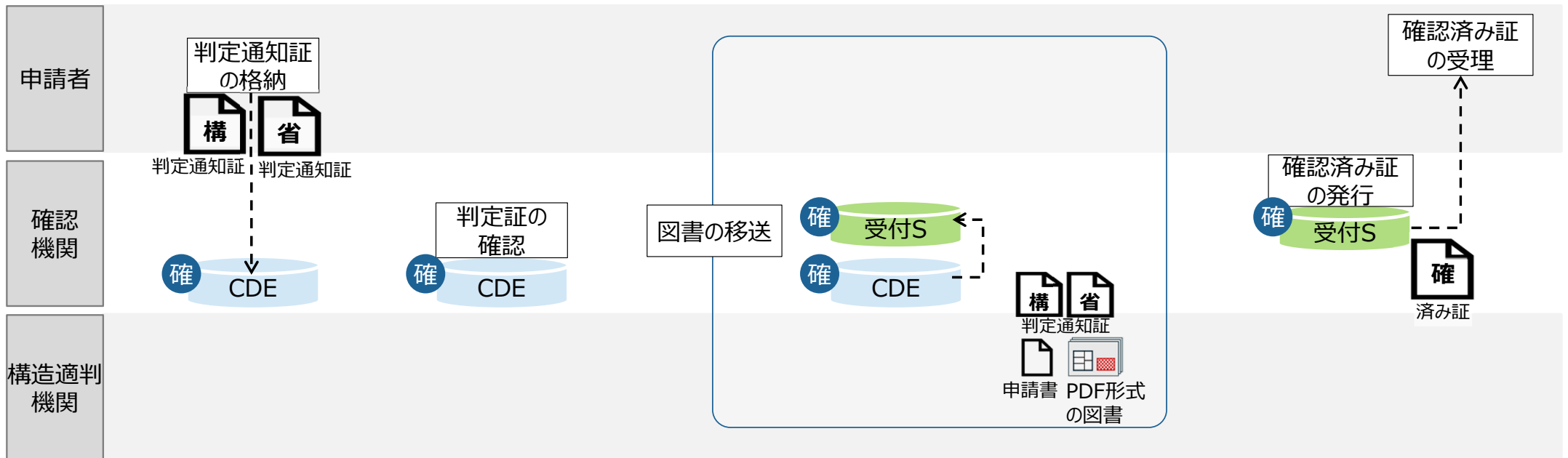
構 構造適判機関の
CDEサイト/受付S

→ アクションの方向
- - -> データの移動方向

- 申請者は、**適判の判定証をCDE上で確認機関へ共有**する。
- 確認機関は、必要書類が全てCDE上に揃ったら、**それらを受付システムへ戻し**て確認済み証を発行する。

判定通知証・確認済み証発行（確認済み証の送付）

- ✓ 申請者は、確認機関のサイトへ適判の判定証を**確認機関のCDE**へ格納し、認機関に共有する。
- ✓ 確認機関は、判定証を確認し関連書類を受付システムへ戻したうえで、確認済み証を送付する



更に詳しい業務手順や、適判が確認に先行するパターンのフロー等は、
BIM審査ポータルに掲載している手順書と講習動画をご参照ください。
<https://bimpermit.jp/manual/>

真向は随時チャットにて受付中

制度開始に向け各方面にて整備された事項

制度開始に向け各方面にて整備された事項

■ 2026年4月の制度開始に向け、各関係者により必要な準備が行われました。本日はそれらの概要をお伝えいたします。

| | | |
|---|---------------|---|
| 1 | 制度策定・ 手順整理 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ガイドライン(初版)の公開 ・ 制度説明会動画の公開 |
| 2 | 仕組みの整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「IFCデータ表示確認サービス」の提供開始 ・ 各システムとArchSyncの連携機能の開発 |
| 3 | 利用拡大 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月よりBIM図面審査受付を開始している機関 ・ 大手申請者の制度活用意向 |
| 4 | 利用サポート | <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報発信プラットフォーム(WEBポータル)の情報拡充 ・ 業務手順書及び講習動画の公開 |

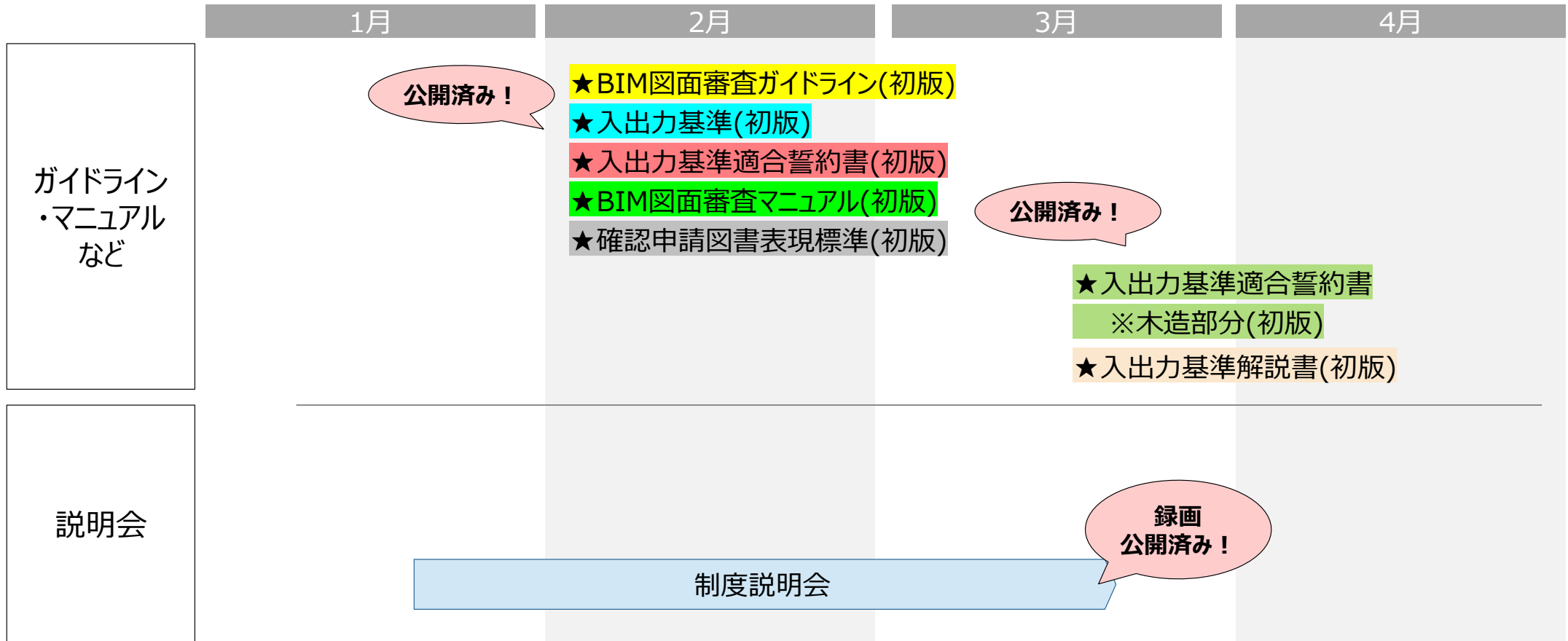
制度開始に向け各方面にて整備された事項

■ 2026年4月の制度開始に向け、各関係者により必要な準備が行われました。本日はそれらの概要をお伝えいたします。

| | | |
|---|---------------|---|
| 1 | 制度策定・ 手順整理 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ガイドライン(初版)の公開 ・ 制度説明会動画の公開 |
| 2 | 仕組みの整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「IFCデータ表示確認サービス」の提供開始 ・ 各システムとArchSyncの連携機能の開発 |
| 3 | 利用拡大 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月よりBIM図面審査受付を開始している機関 ・ 大手申請者の制度活用意向 |
| 4 | 利用サポート | <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報発信プラットフォーム(WEBポータル)の情報拡充 ・ 業務手順書及び講習動画の公開 |

国交省・審査TFによる説明会のご共有

- ガイドライン・マニュアル類の**初版**が3月までに全て公開されております(国交省HPにて)
- また、制度の詳細な説明を行った**講習会の録画**もいつでも閲覧できる状態となっております(ICBAのWEBポータルにて)。



制度内容に不安のある方は上記コンテンツを活用して、今一度ご理解を深めていただければと存じます

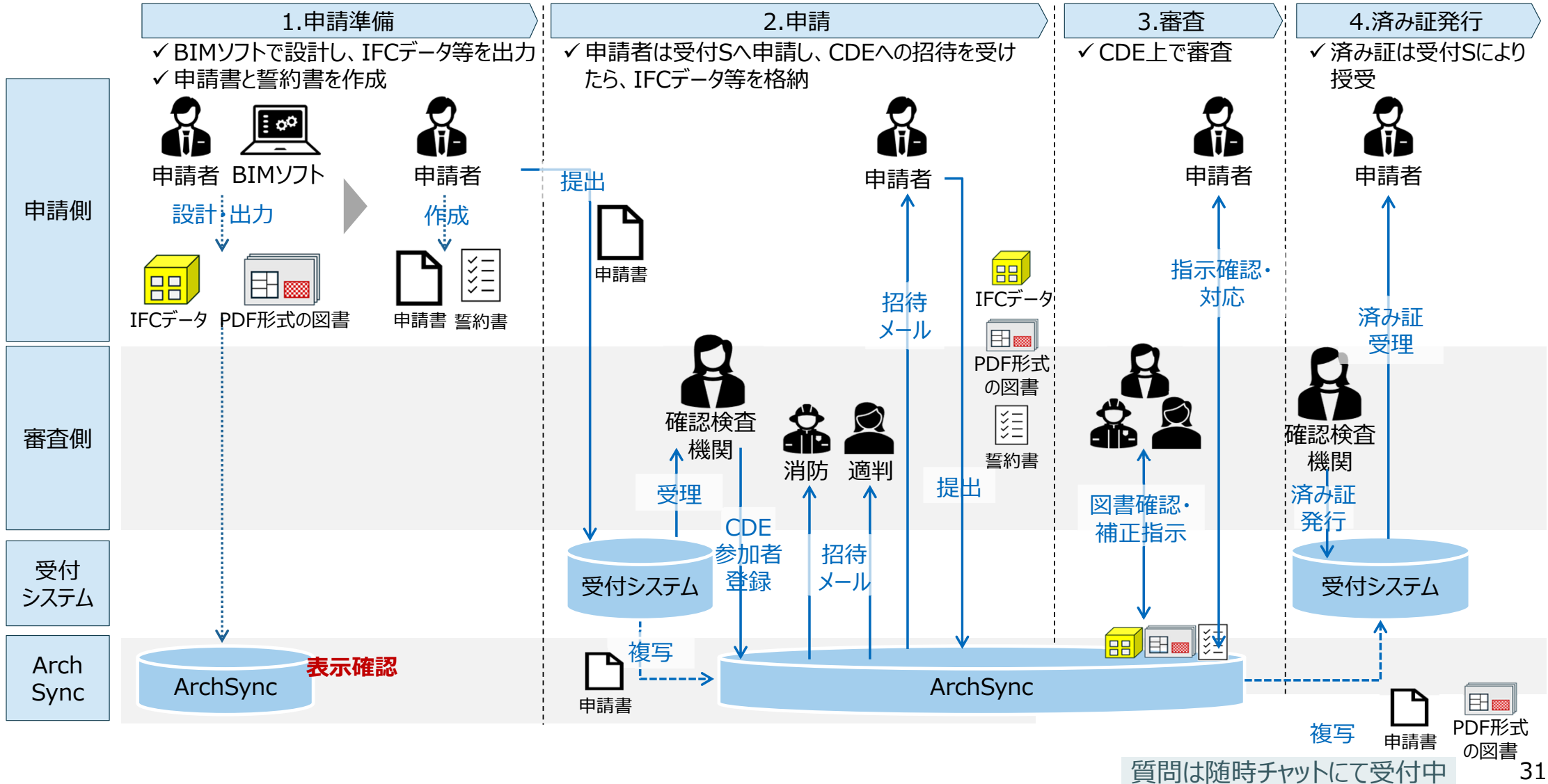
質問は随時チャットにて受付中

制度開始に向け各方面にて整備された事項

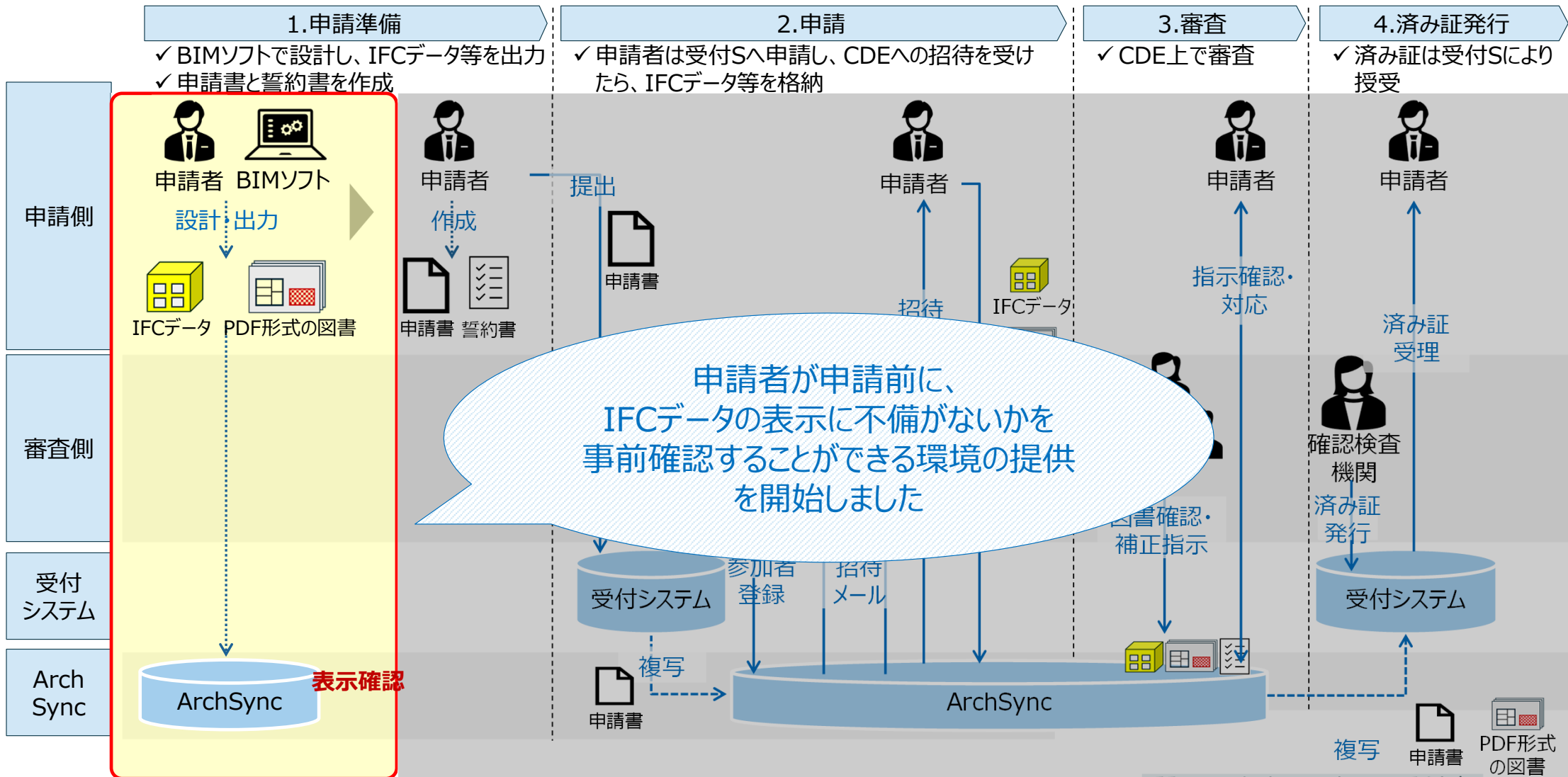
■ 2026年4月の制度開始に向け、各関係者により必要な準備が行われました。本日はそれらの概要をお伝えいたします。

| | | |
|---|---------------|---|
| 1 | 制度策定・ 手順整理 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ガイドライン(初版)の公開 ・ 制度説明会動画の公開 |
| 2 | 仕組みの整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「IFCデータ表示確認サービス」の提供開始 ・ 各システムとArchSyncの連携機能の開発 |
| 3 | 利用拡大 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月よりBIM図面審査受付を開始している機関 ・ 大手申請者の制度活用意向 |
| 4 | 利用サポート | <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報発信プラットフォーム(WEBポータル)の情報拡充 ・ 業務手順書及び講習動画の公開 |

1. IFC事前データ表示確認サービス_BIM図面審査全体の流れ



1.IFC事前データ表示確認サービス_対象範囲



質問は随時チャットにて受付中

1.「IFCデータ表示確認サービス」ご利用の流れ

利用準備



ICBA公式サイトにて
無料会員に登録

マイページから
サービスを利用
申し込み

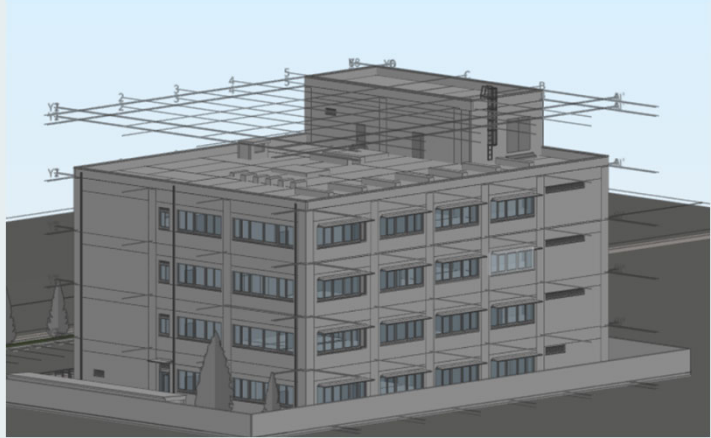
数営業日後、
招待メールが届いたら、
利用登録

件名：
「ArchSync：IFCデータ表示
確認サービスサイトへのご招待」

https://www.icba.or.jp/

利用

自由にIFCデータをアップロードして
表示を確認することができます



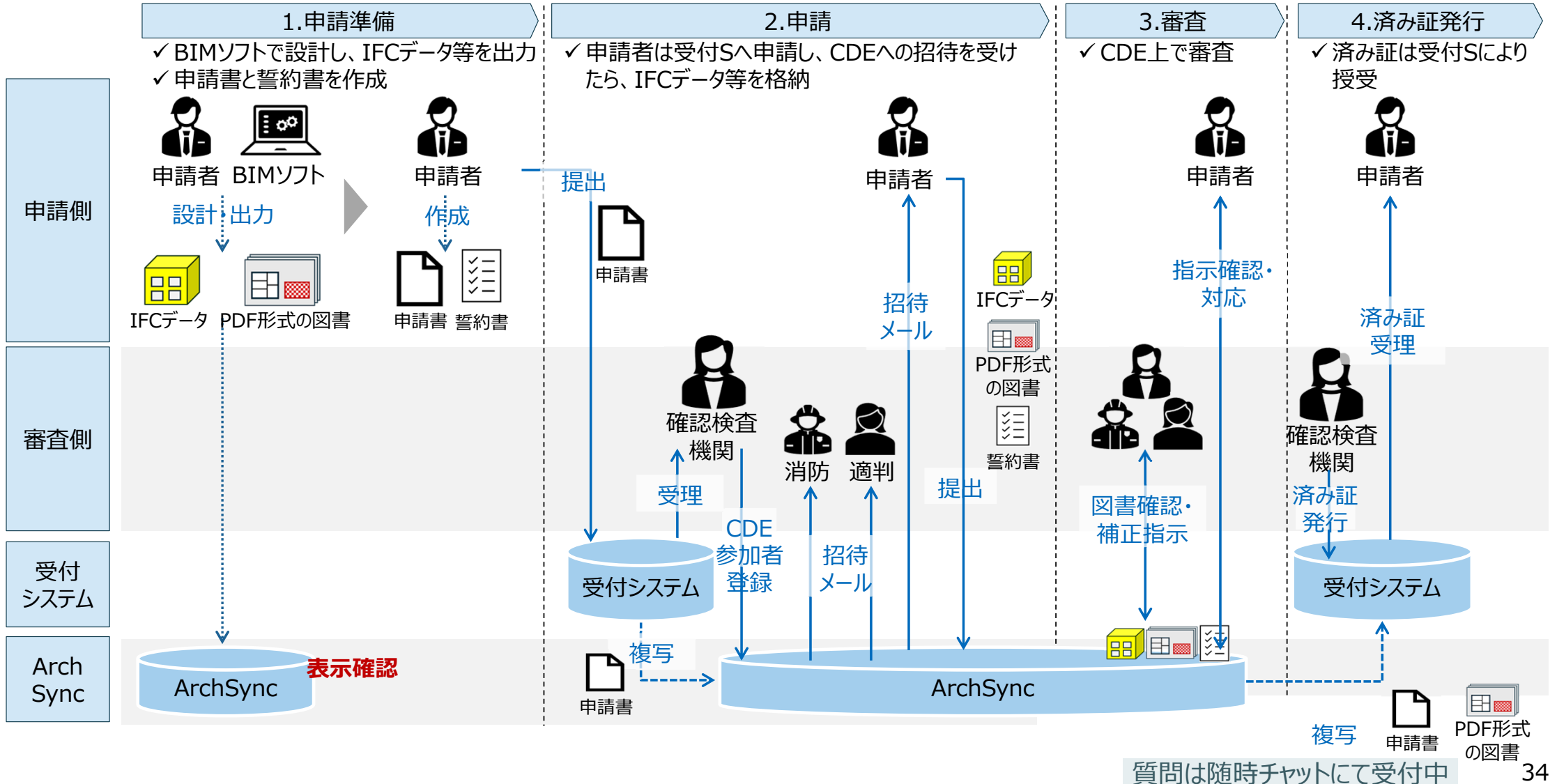
※確認後、データはご自身で
削除するようお願いいたします。
(定期的にICBAでも削除を行います)

※ 1 一度利用登録をすると、継続的に利用が可能な状態となります。

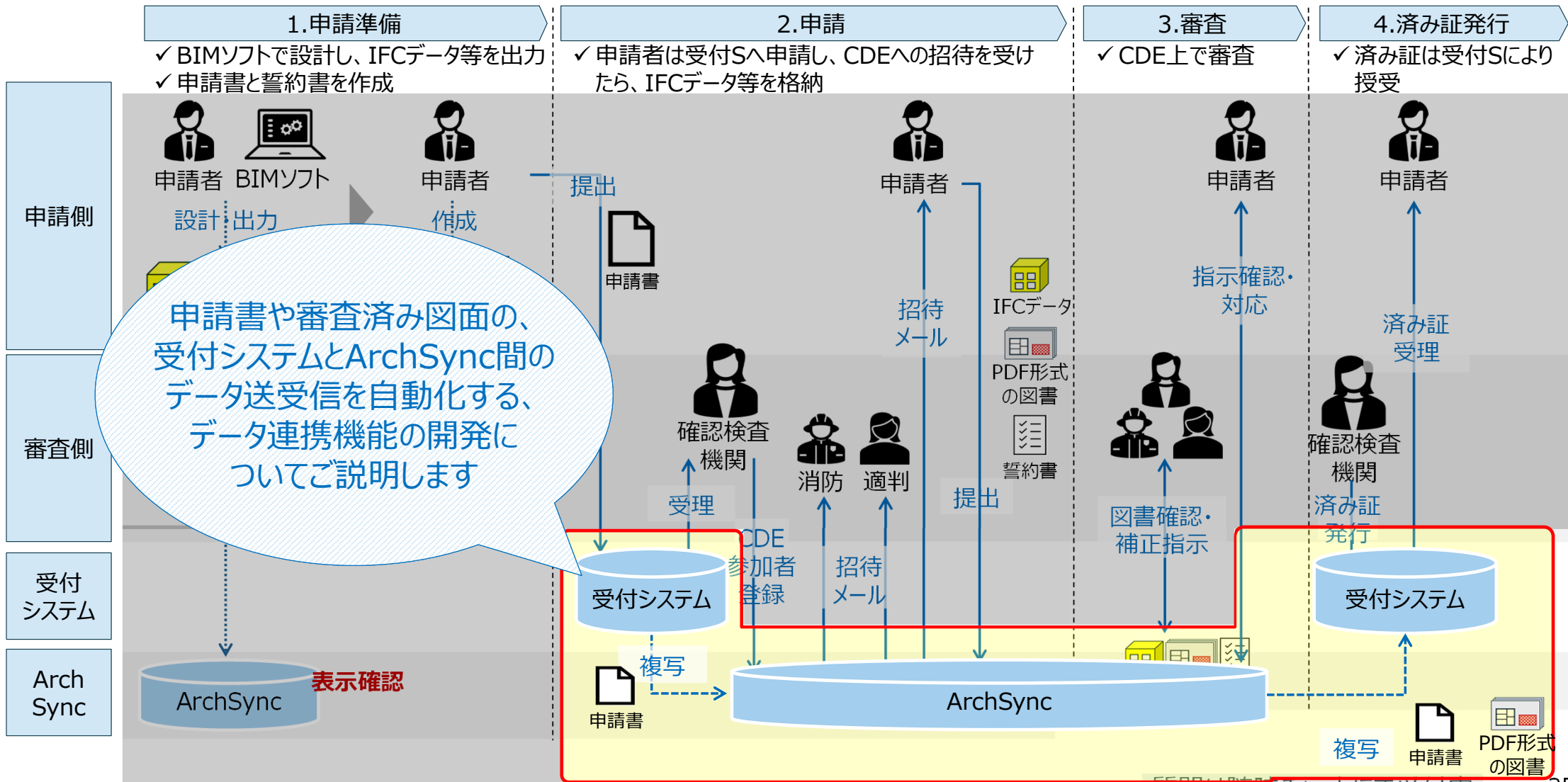
※ 2 詳細な利用マニュアル：[【ユーザー向け】IFCデータ表示確認サービス利用手順書](#)

質問は随時チャットにて受付中

2.各システムとArchSyncの連携機能の開発_BIM図面審査全体の流れ



2.各システムとArchSyncの連携機能の開発



質問は随時チャットにて受付中

連携機能の概要と各システムとの連携可否ステータス

| | |
|--------------------------|--|
| <p>連携機能の概要</p> | <p>データ連携機能の開発を行うと、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受付システムにて申請者から受領した申請書を、審査機関が手動でArchSyncへアップロードし直す必要がなくなります。 ・アークシンクに格納した済み省を、審査機関が手動で受付システムへアップロードする必要がなくなります。 <p>→業務効率の向上や操作ミス発生の軽減が見込まれます。</p> |
| <p>電子申請受付システム (ICBA)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 連携開発済み（2026年4月1日より連携状態で使用可能となっております） ※消防同意機能を部分利用をされている場合の、連携機能は未実装です |
| <p>その他システム</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 電子申請受付システムと同様の仕様で連携を実現できるAPIのご準備が完了しています ・ 個別の仕様で連携開発を行いたい場合もご対応が可能です <p>ご希望の場合は個別にICBAまでご連絡ください</p> |

制度開始に向け各方面にて整備された事項

■ 2026年4月の制度開始に向け、各関係者により必要な準備が行われました。本日はそれらの概要をお伝えいたします。

| | | |
|---|---------------|---|
| 1 | 制度策定・ 手順整理 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ガイドライン(初版)の公開 ・ 制度説明会動画の公開 |
| 2 | 仕組みの整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「IFCデータ表示確認サービス」の提供開始 ・ 各システムとArchSyncの連携機能の開発 |
| 3 | 利用拡大 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月よりBIM図面審査受付を開始している機関 ・ 大手申請者の制度活用意向 |
| 4 | 利用サポート | <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報発信プラットフォーム(WEBポータル)の情報拡充 ・ 業務手順書及び講習動画の公開 |

4月よりBIM図面審査受付を開始している機関

| 機関名 | 確認検査 | 省エネ適判 | 構造適判 |
|-------------------------------------|------|-------|------|
| 確認検査機関 | | | |
| 一般財団法人ベターリビング | — | — | ✓対応 |
| 株式会社 J 建築検査センター | ✓対応 | ✓対応 | — |
| 株式会社グッド・アイズ建築検査機構 | ✓対応 | ✓対応 | ✓対応 |
| 日本建築検査協会株式会社 | ✓対応 | ✓対応 | ✓対応 |
| 一般財団法人 さいたま住宅検査センター | ✓対応 | ✓対応 | — |
| ビューローベリタスジャパン株式会社 | ✓対応 | ✓対応 | ✓対応 |
| 日本ERI株式会社 | ✓対応 | ✓対応 | — |
| 一般財団法人 日本建築センター | ✓対応 | ✓対応 | ✓対応 |
| 一般財団法人 日本建築総合試験所 | ✓対応 | ✓対応 | ✓対応 |
| 特定行政庁 | | | |
| 宮城県 塩竈市 | ✓対応 | — | — |
| 三重県 津市 | ✓対応 | — | — |

<https://bimpermit.jp/kikan/>

質問は随時チャットにて受付中

BIM図面審査関連ページをご準備いただいている機関様の紹介（50音順）

- 日本ERI様
 - 特設ページ：
<https://www.j-eri.co.jp/gyoumu/kenchikukakuninkensa/bim.html>
 - 申請書ダウンロードページ：
https://www.j-eri.co.jp/gyoumu/kenchikukakuninkensa/shoruidl_main_bim.html

- 日本建築センター様
 - ニュースページ(問い合わせ先記載)：
<https://www.bcj.or.jp/news/detail/437/>

- ビューロベリタスジャパン様
 - 特設ページ：
<https://www.bvjc.com/news/2026/260323.html>

竹中工務店様

BIMで設計を行う案件については、特別な理由がない限り、BIM図面審査として提出する方針である。
 社内の設計ガイドラインを、BIM図面審査の入出力基準に合わせて改訂済み。

(関係者へのヒアリングより)

日建設計様

1年前からBIM図面審査に向けたテンプレート整備などの準備を進めてきた。BIMで取り組む案件は全て対応していく。まずは1、2件の実績をつくり、社内に水平展開していく

(2026年1月23日 日刊建設通信新聞『BIM確認申請元年』より)

その他にも、
 大手設計事務所・ゼネコン・ハウスメーカーから、
 前向きな意向を大変数多く頂戴しております。

この潮流が中規模・小規模の申請者へも広く波及していくものと確信しております

制度開始に向け各方面にて整備された事項

■ 2026年4月の制度開始に向け、各関係者により必要な準備が行われました。本日はそれらの概要をお伝えいたします。

| | | |
|---|---------------|---|
| 1 | 制度策定・ 手順整理 | <ul style="list-style-type: none"> ガイドライン(初版)の公開 制度説明会動画の公開 |
| 2 | 仕組みの整備 | <ul style="list-style-type: none"> IFCチェック環境の公開 NICEシステムとArchSyncの連携機能の開発 |
| 3 | 利用拡大 | <ul style="list-style-type: none"> 4月よりBIM図面審査受付を開始している機関 大手申請者の制度活用意向 |
| 4 | 利用サポート | <ul style="list-style-type: none"> 情報発信プラットフォーム(WEBポータル)の情報拡充 業務手順書及び講習動画の公開 問い合わせ対応体制 |

質問は随時チャットにて受付中

BIM審査ポータルサイトの紹介



リンク : <https://bimpermit.jp/>

掲載コンテンツ

全体向け

- 制度概要・ガイドライン等関連資料リンク
- 業務手順書・講習動画 Update
- よくある質問

審査者向け

- 制度対応消防機関一覧 Update

申請者向け

- 制度対応審査機関一覧 Update
- 対応BIM・3DCADソフト一覧 Update

※随時情報は追加予定

国交省や審査TFから発信される情報も含め、制度活用に役立つ情報を統合的に掲載するポータルサイトを運営しています。随時アップデートしておりますので、ブックマークの上定期的にご確認ください。

質問は随時チャットにて受付中

業務手順書

ICBAが標準と想定する業務手順を
役割別に解説した手順書を掲載しています。



- 確認検査員向け手順書
- 判定員向け手順書
- 消防機関向け手順書
- 申請者向け手順書

リンク：<https://bimpermit.jp/manual/>

※管理者向けの手順書はご契約時に直接お渡ししております

講習動画

左記業務手順書をベースに実施した
講習の録画を掲載しております。



- 審査機関向け講習 (確認・適判向けの内容)
- 消防機関向け講習
- 申請者向け動画

リンク：<https://bimpermit.jp/seminar/>

業務の学習や社内業務手順の整備、また審査中に疑問が出た際に手元で参照するガイドとしてご活用ください。

質問は随時チャットにて受付中

制度・ArchSyncに関する問い合わせ窓口

制度・ArchSyncに関する問い合わせフォームをICBAにて準備しております。
本ページ下部のリンク先のページからご質問を送付ください。

※電話での受付は行っておりません

確認のため2度入力してください。

| | |
|--------------------------|-----------------------|
| | |
| お問い合わせ分類※ | ArchSync (確認申請用CDE) ▼ |
| お問い合わせ内容※ (全角1000字以下) | |

お問い合わせ分類で「ArchSync(確認申請用CDE)」を選んでください

ご質問をご記入ください

※内容によっては回答に時間を要することがございます

※個別案件の審査判断に関するものなど、回答しかねる内容もございます

※申請者・消防機関の方へ：審査に関する質問は、まずは案件担当の審査機関へご相談ください

<https://www2.icba.or.jp/contact/index.php>

制度対応を始めるまでの進め方

- ・確認検査機関・適判機関
- ・消防機関

制度開始までの進め方

補足

STEP1

ArchSync契約の相談・見積依頼

契約に向けたご相談・お見積り依頼は、下記窓口までお問い合わせください。
<https://www2.icba.or.jp/contact/index.php>

STEP2

ArchSyncの契約

お見積り後、の利用契約を締結させていただきます。
 対応部門(確認申請・構造適判・省エネ適判)もお伺いしますので、
 各部署との調整をお願いいたします。

対応可能機関をBIM審査ポータル
へ掲載いたします

STEP3

ArchSync環境提供/審査の準備

ArchSyncの環境(機関専用のサイト)をご提供いたします。
 サイト設定・業務手順の整備など、審査に向けた準備を実施ください。

業務手順書・説明会動画・講習動画を
参考に準備をお進めください。
<https://bimpermit.jp/>

STEP4

BIM図面審査開始

準備ができたなら、BIM図面審査の対応をお願いいたします

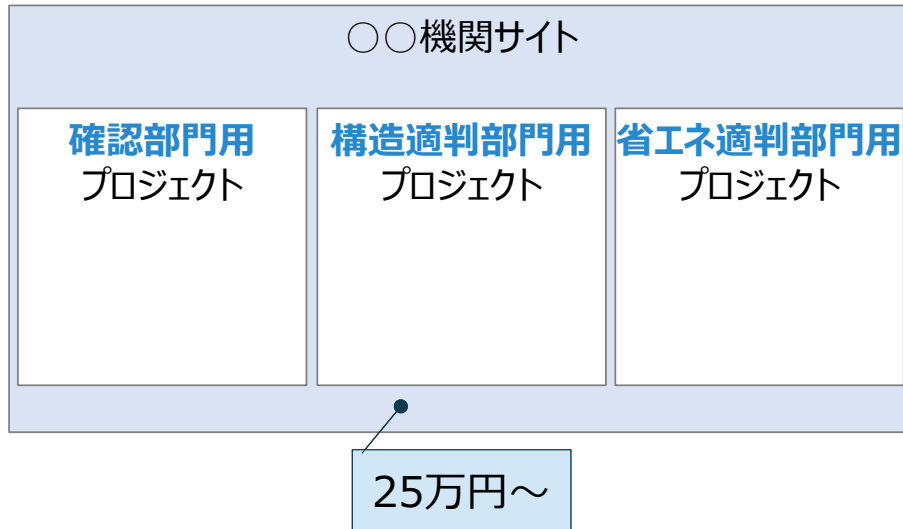
制度やArchSyncの使い方に関する質問は、
 下記フォームへお問い合わせください。
<https://www2.icba.or.jp/contact/index.php>
 ※電話窓口はございません

質問は随時チャットにて受付中

契約のパターン

パターン1

1つのサイトを各部門が共有

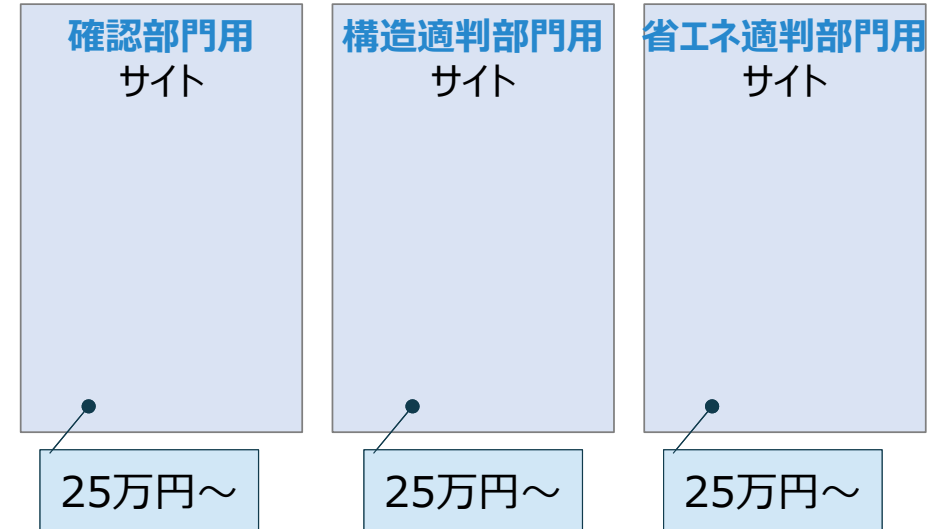


- ✓ サポート費用などを含む5GB = 25万円の部分が、一度しかかからないので割安に使える

上記の契約形態での対応をご希望の場合は、
機関内で調整の上、ICBAまでご連絡ください

パターン2

部門ごとに複数サイトを所有



- ✓ 部門ごとの会計を完全に別々に行うことが可能

部門別で契約する機関の適判部門や適判専門機関
は、ICBAまで契約希望の旨をご連絡ください
(契約の進め方は前ページと同様)

制度開始までの進め方

補足

STEP1

ArchSync接続テスト

まずは自機関の環境でArchSyncを利用できるかを確認いただきたく、接続テストご希望の旨を下記窓口からお問い合わせください。
<https://www2.icba.or.jp/contact/index.php>

既に2月実施の講習にてArchSyncを操作いただけている機関は実施不要です

STEP2

BIM図面審査対応の表明

接続テスト後、ArchSyncでのBIM図面審査に対応いただける旨をICBAへお伝えください。

対応いただける旨をBIM審査ポータルへ掲載いたします

STEP3

BIM図面審査対応の準備

業務手順の確認など、審査対応に向けた準備を実施ください。

・業務手順書・説明会動画・講習動画を参考に準備をお進めください。
<https://bimpermit.jp/>

STEP4

BIM図面審査開始

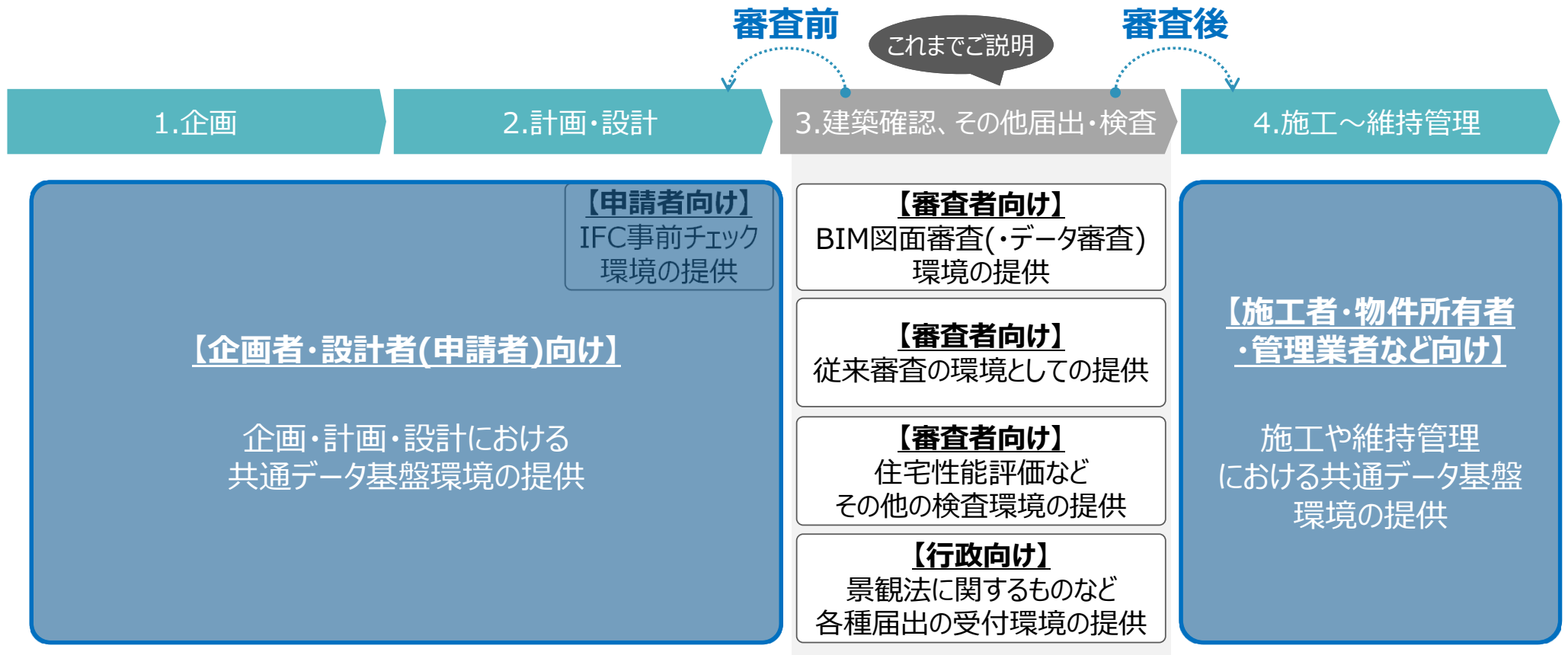
準備ができれば、BIM図面審査の対応をお願いいたします

制度やArchSyncの使い方に関する質問は、下記フォームへお問い合わせください。
<https://www2.icba.or.jp/contact/index.php>
 ※電話窓口はございません

消防機関様も、サイトを有料契約いただくことが可能なので、ご希望・ご相談は下記よりお問い合わせ下さい。
<https://www2.icba.or.jp/contact/index.php>

質問は随時チャットにて受付中

新サービス（プロジェクトCDE）の内容・料金

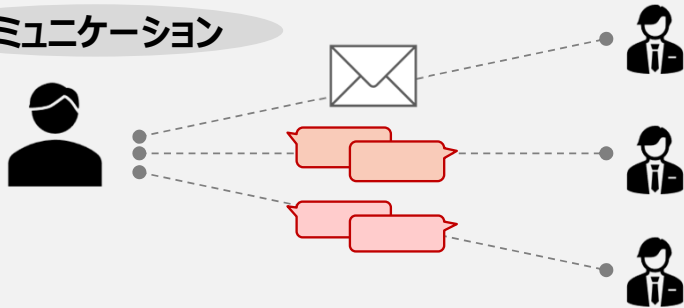


**BIM図面審査を見据えて準備したCDE環境を、企画・設計・施工・維持管理といった
審査前後のシーンでも利用いただくことで、建築業界全体の課題解決に貢献できると考えました。**

新しいArchSyncの使い方イメージ # 1 コミュニケーション・データ共有

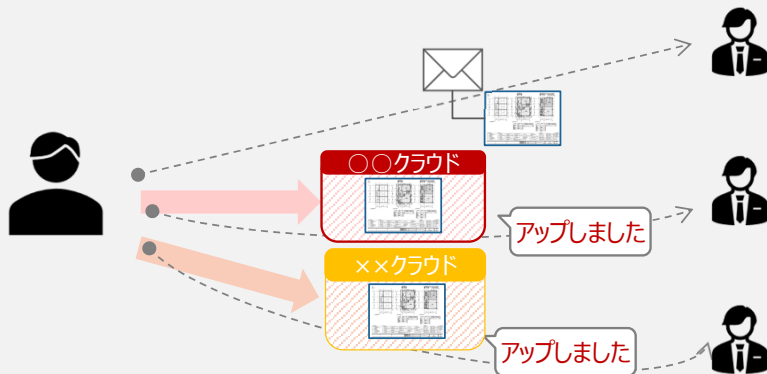
これまでの案件推進

コミュニケーション



外部とはチャットやメールでやり取り。
(チャットツールは相手ごとに使い分け)

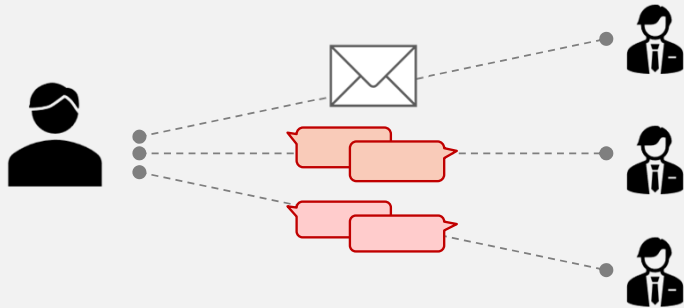
データ共有



データ送付の際は、相手の環境に
合わせて別の方法で資料送付

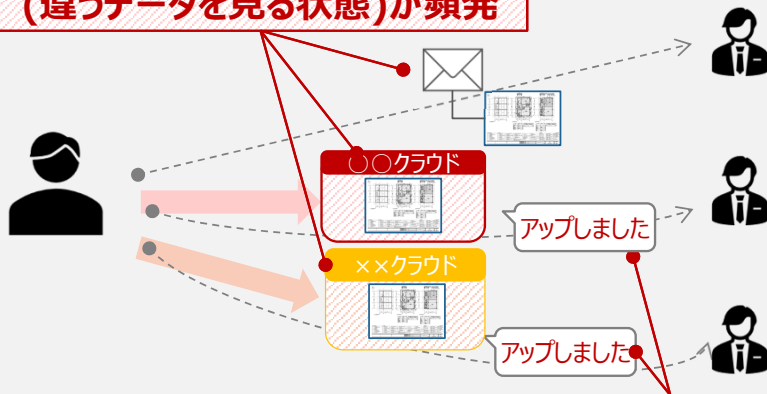
新しいArchSyncの使い方イメージ # 1 コミュニケーション・データ共有

これまでの案件推進



チャット・メールなど異なる手段でやり取りするので
案件管理に手間かかる(最新データも見つけ難い)

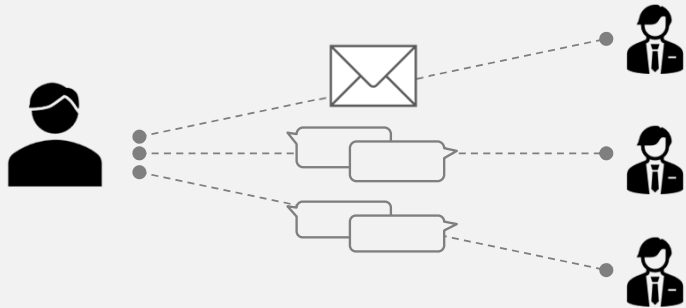
相手ごとに別々の方法でデータを共有するので、**バージョンズレ(違うデータを見る状態)が頻発**



データをアップした旨を**別の手段で連絡**するので、**知らされた側はどのデータのことか分かりにくい**

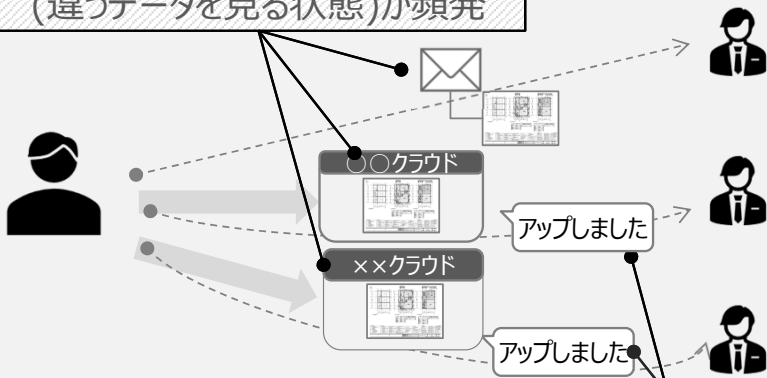
新しいArchSyncの使い方イメージ # 1 コミュニケーション・データ共有

これまでの案件推進



チャット・メールなど異なる手段でやり取りするので案件管理に手間かかる(最新データも見つけ難い)

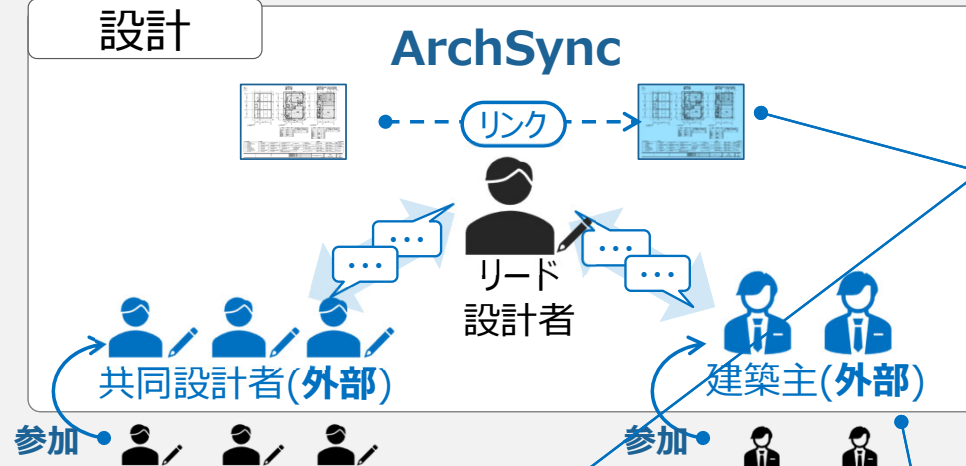
相手ごとに別々の方法でデータを共有するので、バージョンズレ(違うデータを見る状態)が頻発



データをアップした旨を別の手段で

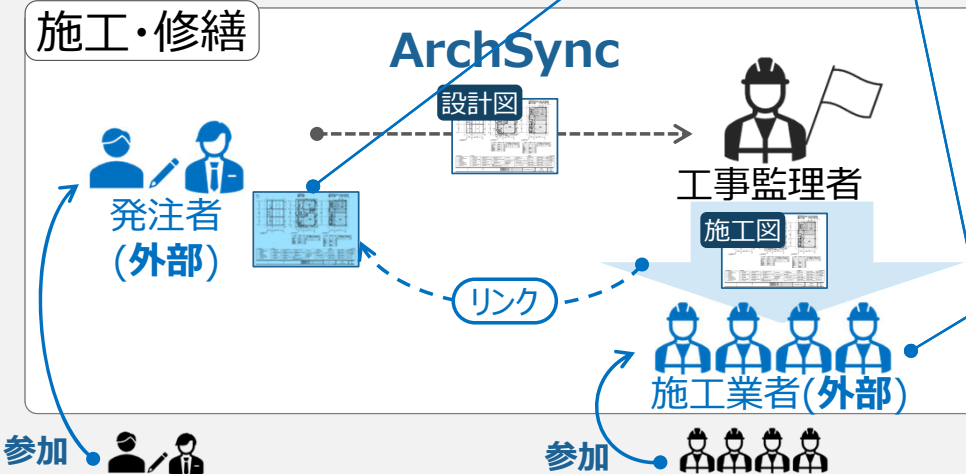
ArchSyncを使った案件推進

設計



リンクファイルも含め、常に最新のデータが共有されるため、**最新版を探す手間やバージョンズレによるコミュニケーションロスが削減**

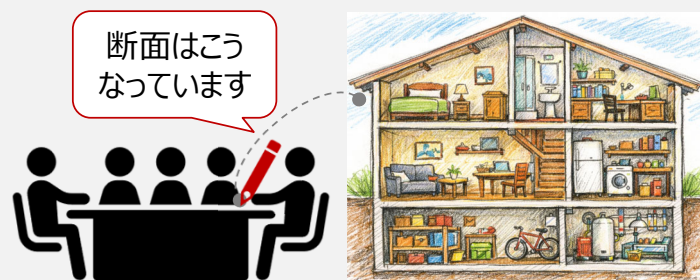
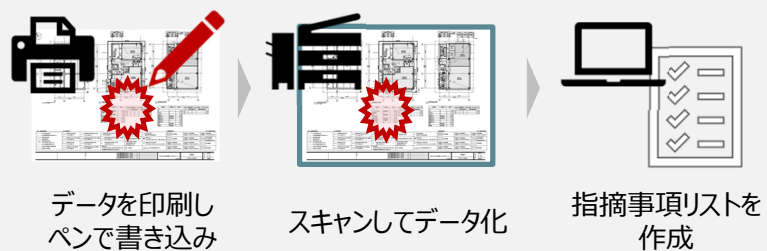
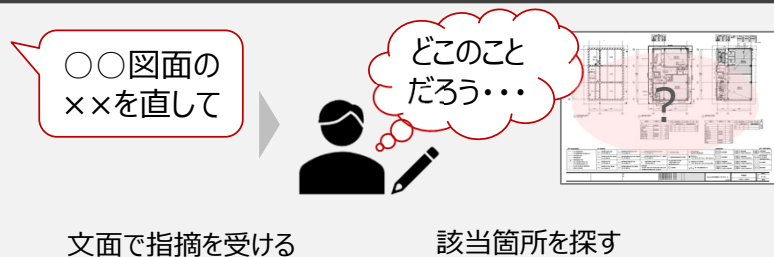
施工・修繕



外部関係者との会話やデータ共有もArchSync上で完結するため、**複数のコミュニケーションツールやクラウドツールを行き来しなくてよい**

案件の関係者とデータをArchSync上に集約することで、案件推進が効率化する

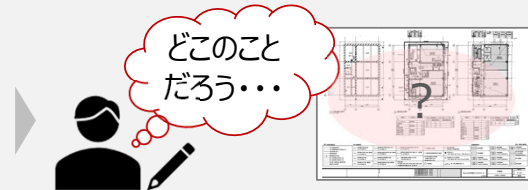
これまでの意図伝達



内部構造は、スケッチ等を用いて説明
(どのこのことかが伝わるよう、ミーティングにて実施)

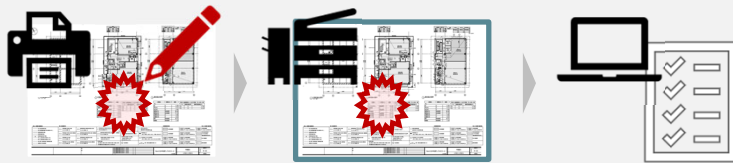
新しいArchSyncの使い方イメージ # 2 意図伝達

これまでの意図伝達



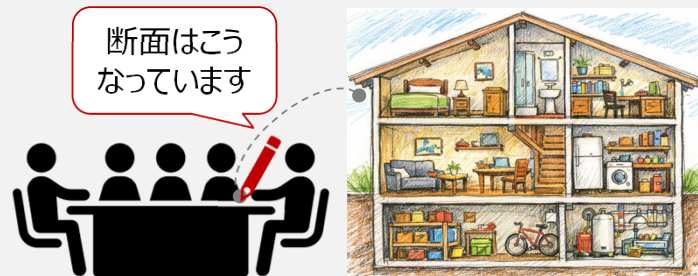
文面での指摘では意図が伝わりきらず、
指摘箇所確認のやり取りに時間がかかる

玄阿1



印刷・書き込み・スキャン・リスト化と、
手間のかかる工程を踏まなければならない

玄阿2



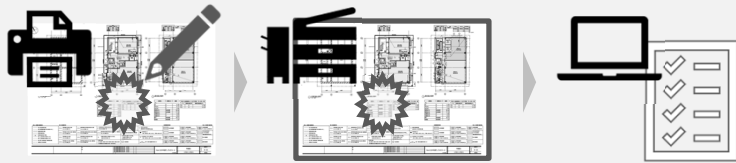
内部構造の説明に時間と工数がかかり、
その分案件進捗が遅れる

新しいArchSyncの使い方イメージ # 2 意図伝達

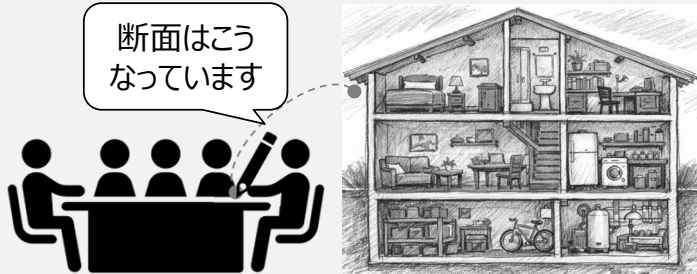
これまでの意図伝達



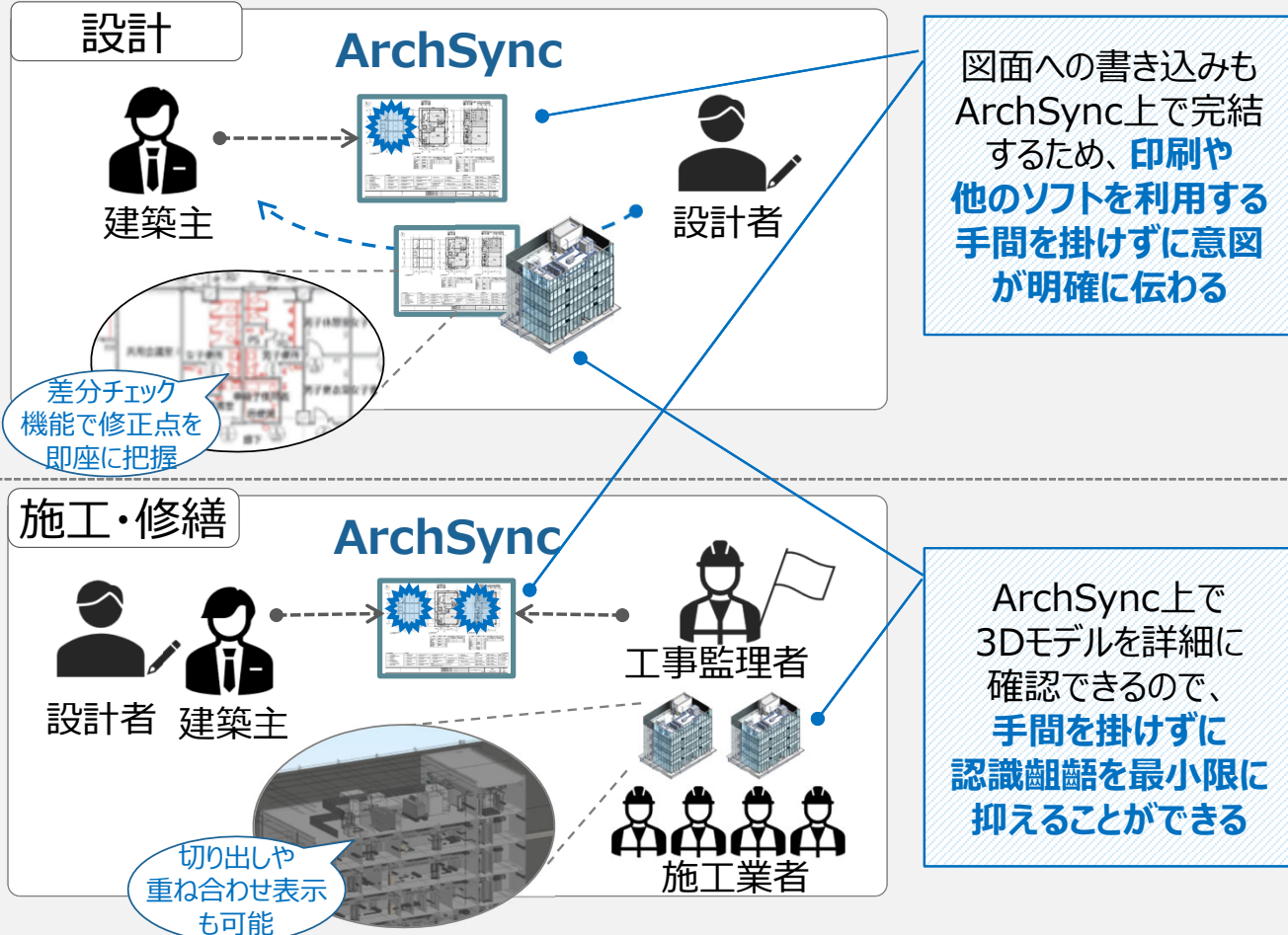
文面での指摘では意図が伝わりきらず、指摘箇所確認のやり取りに時間がかかる



齟齬無く伝えるには、印刷・書き込み・スキャンと手間のかかる工程を踏まなければならない



ArchSyncを使った意図伝達



ArchSyncには2D/3Dビューイング関連機能が備わっているため、正確かつこまめに意図伝達を行える

機能一覧 (ArchSyncの代表的な機能)

| | | 主な機能 | 使い方 |
|-------------|--------------------|---|--|
| ビューイング機能 | 3Dモデル (IFC) ビューイング | <ul style="list-style-type: none"> 断面表示機能 モデル重ね合わせ表示機能 ウォークスルー機能 計測機能 | <ul style="list-style-type: none"> 3Dモデルを自由に切り出して内部構造を把握できる 複数モデルを重ね合わせ、干渉を確認する(主に設計時利用) 建築物内部を人間の視点で確認できる 任意の2点間の距離を確認できる |
| | 2D (PDF,画像) ビューイング | <ul style="list-style-type: none"> 差分チェック機能 計測機能 | <ul style="list-style-type: none"> 二つの図面の差分を確認できる(修正前後/階層別など) 任意の2点間の距離を確認できる |
| コミュニケーション機能 | | <ul style="list-style-type: none"> チャット機能 メール機能 PDFマークアップ・コメント機能 通知機能 | <ul style="list-style-type: none"> プロジェクト・フォルダ・ファイルそれぞれに紐づくチャットを開設できる システムから通常業務用のメールへ連絡を送ることができる 図面上に直接オブジェクト・コメントを書き込むことができる ファイルのアップロードなどを相手にメールで知らせることができる |
| データ共有機能 | | <ul style="list-style-type: none"> リンクファイル機能 Anyoneユーザー機能(不特定多数へのデータDLリンク) | <ul style="list-style-type: none"> 更新がリアルタイムに反映されるコピーファイルを作成でき、常に同じデータを共有することができる 組織内外問わず広くデータを配布することができる |
| 管理機能 | | <ul style="list-style-type: none"> 階層構造でのデータ保管機能および権限設定機能 ユーザーグループ機能(部署などでまとめて権限設定) 操作LOG記録機能 データ検索機能 | <ul style="list-style-type: none"> エクスプローラー感覚でデータ保管し、相手を限定して共有できる 一度設定すれば、権限設定の度に部署名簿を確認しなくてよい いつ・誰が・何を見たか・何を書き込んだかなど詳細記録を残せる どこに保管したか分からないデータをキーワードで検索できる |

| アカウント数 | ストレージ | 料金(年額) |
|---|-------|----------|
| 1人 | 5GB | 15,000円 |
| 3人 | 15GB | 45,000円 |
| 5人 | 20GB | 75,000円 |
| 10人 | 50GB | 140,000円 |
| 20人 | 100GB | 280,000円 |
| 30人 | 150GB | 420,000円 |
| 50人 | 250GB | 650,000円 |
| 以降、個別にお問い合わせください https://www2.icba.or.jp/contact/index.php | | |

1人 = 5GBの比率でテーブルを設定していますが、各アカウントは5GBの上限に縛られることなくストレージを利用できます。
 (3人プランの場合、1人で15GB使ってもよい)

- 契約期間：年間契約のみ
 ※月単位の契約は出来かねます
- 支払い方法：銀行振込・クレジットカード等
- 支払いタイミング：申し込み時に年額を一括支払い

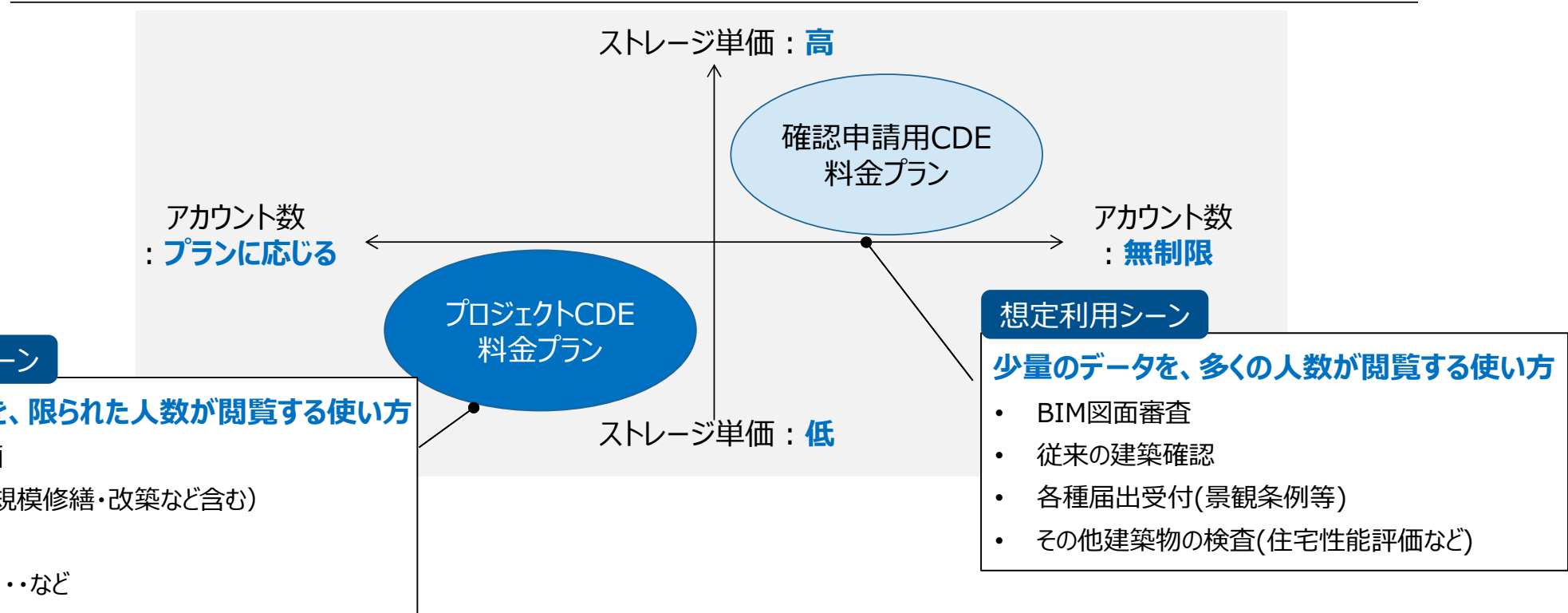
※税別

ArchSyncの2種類の料金体系

ICBAのArchSync
サービスの全体像

使える機能は完全に同一のCDE環境を、想定される利用シーンに合わせて策定した2つの料金体系で提供を行います

二つの料金の関係性



それぞれ最適な料金体系が異なることを前提に、同じ機能を持ったサービスを二つの料金体系で提供することといたしました

※制度の利便性が最大化される状態を守るため、**プロジェクトCDE料金で契約したサイトにおけるBIM図面審査は禁止**しております。

なお、審査でのご利用にあたっては確認申請用CDE料金がお得になるよう設定しております

ご利用までの進め方

参考

本日

ご利用検討の開始

サービスの利用検討・契約プランのご検討を開始ください

6月以降
随時

ICBAのホームページにて利用申し込み・支払い

基本のご契約はICBAのホームページ上の申込ページにて行います

随時

ArchSync利用開始

お支払い後、数営業日後にArchSyncのサイトをお渡しいたします

続報はWEBポータルにて公開します

契約についてのご相談は下記よりお問い合わせ下さい。
<https://www2.icba.or.jp/contact/index.php>

質問は随時チャットにて受付中

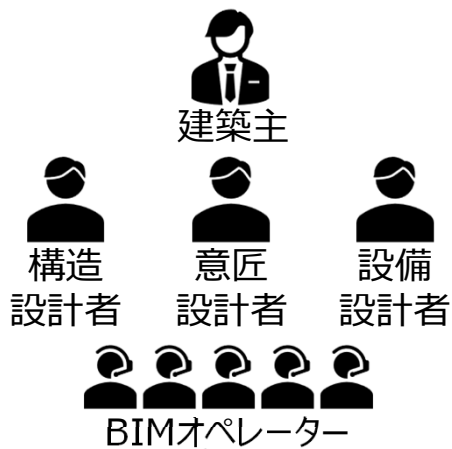
ICBAが提供するサービス (ArchSync) について

建築ライフサイクルの基盤としての役割をArchSyncが一貫して担うことで、建築業界全体の効率化に貢献します

ArchSync

企画・設計

人・データの一元化と
確実な意図伝達により高速設計



審査

BIM図面/データ審査対応・
効率的審査コミュニケーション



施工

関係者間での緊密なコミュニケーションで円滑・確実な施工



維持管理

全てのデータを蓄積し、
簡単に・漏れなく情報共有



推奨 利用環境

- OS : Microsoft **Windows11** Ver21H2 Ver22H2 Ver23H2
- PCスペック : **Windows11の推奨要件**
- Webブラウザ : Google **Chrome** Ver120、Microsoft **Edge** Ver120
- 通信 : **インターネット**環境 (**LG-WAN**だけでは利用不可)

利用条件

アカウント作成にメールアドレスが必要

→組織の共有アドレスでのアカウント作成は禁止いたしません、**1 アカウントで複数端末に同時ログインはできません。個人単位のアドレスでのご利用を推奨**いたします。

自社の設備をご確認いただき、必要に応じてご準備をいただけますようお願い申し上げます。

| NO | 提供プラン | 想定利用者 | 主な用途 | 契約期間 | 料金イメージ |
|----|-----------|--|-----------------------------|-------|-------------|
| 1 | 確認申請用CDE | <ul style="list-style-type: none"> ・審査機関 ・消防 ・申請者 | BIM図面審査・データ審査 | 年度区切り | 確認申請用CDE料金 |
| 2 | IFC表示確認 | <ul style="list-style-type: none"> ・申請者 | 申請前のIFCデータの見え方確認 | - | 無償 |
| 3 | プロジェクトCDE | <ul style="list-style-type: none"> ・発注者 ・設計者 ・施工者 ・維持管理者 | BIM活用を前提とした設計・施工・維持管理のデータ連携 | 1年間 | プロジェクトCDE料金 |

本日はご参加くださりありがとうございました。

ZOOMから退室後に自動でアンケートフォームが立ち上がります。

ご協力を何卒お願い申し上げます。

資料・FAQ

資料：本日の説明会終了後、以下よりDLいただけます。

https://www.icba.or.jp/zzfilebox/2025_04cde-shiryous.pdf

資料・FAQ共、後日ICBAのHP等でも公開いたします。

お見積りご依頼
(審査機関様)

お問い合わせください。

<https://www2.icba.or.jp/contact/index.php>

本説明会のアンケート
(みなさま)

以下URLまたはQRコードからも回答が可能です。

<https://s.zoom.us/j/91234567890>

